

授業科目 (英語)		生活と環境 (フード) (Life and environment)		担当教員名	吉瀬献策・蛭原 祐吾	
科目ナンバー		I A2--1		担 当 形 態	オムニバス	
開講年次・期間		1 年次・前期	単位数	2	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態		演習	卒業・免許・資格等の必修			
到 達 目 標		・ 本学の建学の精神「信愛」「健康」「報恩」の意義と教育目的を理解し、自らの目標とする。 ・ 本学をとりまく地域の歴史と伝統、本学の歴史を知る。 ・ 幼児教育に関連する基本的事項と最近の話題を知り、心身ともに豊かな人間性を身につける。				
学位授与の方針との関連		本学をとりまく地域の環境的・歴史的特色を知り、学生として身につけるべき基本教養を習得しながら、将来の社会人として、また専門的職業人として必要な他者への敬意や共感力を身につけるための科目である。				
授 業 計 画						
授業の方法	板書・配付資料・パワーポイントを活用しながら講義形式で進める。レスポンスカードにて意見・疑問点の記述を求める。担当教員ごとに1回、講義に対する意見等をまとめてレポート等の提出を課す。 フードコース：「食」にはエネルギーや栄養素を補うことのほかに、社会性を育み、食への興味、生きる力の基礎を培う役割がある。本講義ではアレルギーについて、成長に必要な栄養について等の講義および実践的な調理実習を行い、「食」についての理解を深めていく。(全10回)					
回		授 業 内 容				
		1. 豊かな人間性を身につける①「専門的職業人として必要なこと」(吉瀬) 2. 豊かな人間性を身につける②「これから求められる教育とは」(吉瀬) 3. 豊かな人間性を身につける③「修紅短期大学の建学精神」(吉瀬) 4. 豊かな人間性を身につける④「地域を支える人材とは」(吉瀬) 5. エネルギーとは? ～私たちの体を動かすしくみ～ 6. 栄養素の基本 ～五大栄養素とその役割～ 7. アレルギーを知ろう ～原因と対策を学ぶ～ 8. 間食の重要性 ～おやつ役割と選び方～ 9. 食育の基本 ～食事がもたらす健康への影響～ 10. 食とライフスタイル ～バランスの取れた食事とは～ 11. 食品表示の読み方 ～賢い食材選び～ 12. 食文化と地域の食材 ～伝統食と地産地消～ 13. 調理実習：簡単に栄養バランスの良い食事 14. まとめ：健康的な食生活を実践しよう 15. 学習成果発表				
アクティブラーニング の取り入れ状況		毎時間、レスポンスカード等を用いて意見・疑問点等を求める。講義時間初頭に意見・疑問等について解説や質疑応答を行う。				
事 前 学 修(分／回)		次回の講義内容をみて、重要語句について調べておくこと (90 分)				
事 後 学 修(分／回)		配付資料やノートにより復習して、知識を確実なものとする (90 分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		レスポンスカードの意見・疑問への解説と質疑応答を行う。				
成績評価の方法と基準		レポート・レスポンスカードの内容 (90%)、授業態度 (10%) を合わせて総合評価する。				
教 科 書		特になし				
参 考 書 等		一関市史編纂委員会 「一関市史 第3巻」 一関市発行 八十年のあゆみ 学校法人修紅学院 他				
オフィスアワー		授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験／その他		特になし				

授業科目 (英語)		生活と環境 (ダンス) (Life and environment)		担当教員名		吉瀬献策・高橋 亮	
科目ナンバー		I A2--1		担 当 形 態		オムニバス	
開講年次・期間		1 年次・前期	単位数	2	授業時間／回数		30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態		演習		卒業・免許・資格等の必修			
到 達 目 標		・ 本学の建学の精神「信愛」「健康」「報恩」の意義と教育目的を理解し、自らの目標とする。 ・ 本学をとりまく地域の歴史と伝統、本学の歴史を知る。 ・ 幼児教育に関連する基本的事項と最近の話題を知り、心身ともに豊かな人間性を身につける。					
学位授与の方針との関連		本学をとりまく地域の環境的・歴史的特色を知り、学生として身につけるべき基本教養を習得しながら、将来の社会人として、また専門的職業人として必要な他者への敬意や共感力を身につけるための科目である。					
授 業 計 画							
授業の方法		板書・配付資料・パワーポイントを活用しながら講義形式で進める。レスポンスカードにて意見・疑問点の記述を求める。担当教員ごとに1回、講義に対する意見等をまとめてレポート等の提出を課す。 ダンスコース：幼児にとって運動は健康的な心と体の成長を叶えていきます。特にダンスは継続できる運動です。ダンスを通して、幼児と共に健康的な日常を定着させるだけでなく、表現力や創作力を磨いていきます。個別のダンスや集団のダンスなど様々なスタイルのダンスを実践的に学んでいきます。(全10回)					
回		授 業 内 容					
		1. 豊かな人間性を身につける①「専門的職業人として必要なこと」(吉瀬) 2. 豊かな人間性を身につける②「これから求められる教育とは」(吉瀬) 3. 豊かな人間性を身につける③「修紅短期大学の建学精神」(吉瀬) 4. 豊かな人間性を身につける④「地域を支える人材とは」(吉瀬) 5. ダンスと健康 ～体を動かすメリット～ 6. リズム感を鍛えよう ～音楽に乗って体を動かす～ 7. 表現としてのダンス ～感情を動きにのせる～ 8. 個人で踊る vs 集団で踊る ～それぞれの違いと楽しみ方～ 9. 基本ステップをマスターしよう 10. ペアダンスの基礎 ～2人で踊る楽しさ～ 11. グループダンスを楽しもう ～チームでの動き方～ 12. 子どもと一緒に踊るダンス ～親子でできる簡単なステップ～ 13. 創作ダンスに挑戦！ ～オリジナルの振り付けを考えよう～ 14. 発表会&フィードバック ～みんなで成果を共有しよう～ 15. 学習成果発表					
アクティブラーニング の取り入れ状況			毎時間、レスポンスカード等を用いて意見・疑問点等を求める。講義時間初頭に意見・疑問等について解説や質疑応答を行う。				
事 前 学 修(分／回)			次回の講義内容をみて、重要語句について調べておくこと (90 分)				
事 後 学 修(分／回)			配付資料やノートにより復習して、知識を確実なものとする (90 分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法			レスポンスカードの意見・疑問への解説と質疑応答を行う。				
成績評価の方法と基準			レポート・レスポンスカードの内容 (90%)、授業態度 (10%) を合わせて総合評価する。				
教 科 書			特になし				
参 考 書 等			一関市史編纂委員会 「一関市史 第3巻」 一関市発行 八十年のあゆみ 学校法人修紅学院 他				
オフィスアワー			授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験／その他			特になし				

授業科目 (英語)		生活と環境 (アート) (Life and environment)		担当教員名		吉瀬献策・皆川理奈	
科目ナンバー		I A2--1		担 当 形 態		オムニバス	
開講年次・期間		1 年次・前期	単位数	2	授業時間／回数		30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態		演習	卒業・免許・資格等の必修				
到 達 目 標		・ 本学の建学の精神「信愛」「健康」「報恩」の意義と教育目的を理解し、自らの目標とする。 ・ 本学をとりまく地域の歴史と伝統、本学の歴史を知る。 ・ 幼児教育に関連する基本的事項と最近の話題を知り、心身ともに豊かな人間性を身につける。					
学位授与の方針との関連		本学をとりまく地域の環境的・歴史的特色を知り、学生として身につけるべき基本教養を習得しながら、将来の社会人として、また専門的職業人として必要な他者への敬意や共感力を身につけるための科目である。					
授 業 計 画							
授業の方法		板書・配付資料・パワーポイントを活用しながら講義形式で進める。レスポンスカードにて意見・疑問点の記述を求める。担当教員ごとに1回、講義に対する意見等をまとめてレポート等の提出を課す。 アートコース：(全10回)					
回		授 業 内 容					
		1. 豊かな人間性を身につける①「専門的職業人として必要なこと」(吉瀬) 2. 豊かな人間性を身につける②「これから求められる教育とは」(吉瀬) 3. 豊かな人間性を身につける③「修紅短期大学の建学精神」(吉瀬) 4. 豊かな人間性を身につける④「地域を支える人材とは」(吉瀬) 5. 自分を観察する①「感覚遊び 疑う」(皆川) 6. 自分を観察する②「感覚遊び 心の動き」(皆川) 7. 自分を観察する③「視点・感覚を言葉にする」(皆川) 8. 自分を観察する④「自分を使ったコラージュ」(皆川) 9. 表現を試行する①「自分の感覚にフィットするものを探す・選ぶ」(皆川) 10. 表現を試行する②「表したいもの・ことを掘り起こす」(皆川) 11. 表現を試行する③制作 (皆川) 12. 表現を試行する④制作 (皆川) 13. 表現を試行する⑤制作 (皆川) 14. 他者に伝える 展示 (皆川) 15. 学習成果発表					
アクティブラーニング の取り入れ状況		毎時間、レスポンスカード等を用いて意見・疑問点等を求める。講義時間初頭に意見・疑問等について解説や質疑応答を行う。					
事 前 学 修(分／回)		次回の講義内容をみて、重要語句について調べておくこと (90 分)					
事 後 学 修(分／回)		配付資料やノートにより復習して、知識を確実なものとする (90 分)					
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		レスポンスカードの意見・疑問への解説と質疑応答を行う。					
成績評価の方法と基準		レポート・レスポンスカードの内容 (90%)、授業態度 (10%) を合わせて総合評価する。					
教 科 書		特になし					
参 考 書 等		一関市史編纂委員会 「一関市史 第3巻」 一関市発行 八十年のあゆみ 学校法人修紅学院 他					
オフィスアワー		授業終了時教室で					
科目に関連する実務経験／その他		皆川：幼児施設での造形表現教室教師					

授業科目 (英語)		日本国憲法 (The constitution of Japan)		担当教員名		高橋 秀憲	
科目ナンバー		I A2①-2		担 当 形 態		単独	
開講年次・期間		2 年次・前期	単位数	2	授業時間／回数		30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態		講義	卒業・免許・資格等の必修		幼稚園教諭必修		
到 達 目 標		① 新聞・テレビ・ニュース等で報道される憲法問題の論点を理解し、説明できる。 ② 日本国憲法の基本的な考え方とか仕組みを理解できる。 ③ 主権者国民・有権者の一人として、こうした問題に対し意思表示を求められるときには、あわてふためくことなく自分なりの判断を下せるようになる。					
学位授与の方針との関連		社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけ、専門職業人としての意識と責任感を身につけるための科目です。					
授 業 計 画							
授業の方法	板書とテキスト・配付プリント等を活用し、対話形式で進めます。						
回	授 業 内 容						
	1. はじめに…「六法」と法令秩序 2. 憲法とは何か?…「最高法規」、近代憲法の原則と現代憲法の原則 3. 「日本」憲法…大日本帝国憲法と日本国憲法、改憲問題 4. 「国民の要件」…国民の3つの地位と権能、外国人の人権と国籍条項 5. 選挙…参政権、近代選挙法の原則と選挙制度、「一票の価値」と定数問題 6. 象徴天皇制…「象徴」、天皇の地位と権能、摂政と臨時代行 7. 地方自治…「地方自治の本旨」、首長制と住民の直接請求権 8. 平和国家…「戦争の放棄」の歴史、9条と自衛隊、安全保障法制と国際貢献 9. 「個人の尊厳」…「基本権」の考え方、裁判規範性からする基本権分類 10. 新しい人権…プライバシーの権利・知る権利・環境権と「幸福追求権」 11. 国会…権力分立と「国権の最高機関」、両院制と衆議院の優越、国政調査権 12. 内閣…内閣総理大臣と内閣、「法律による行政の原理」 13. 裁判所…「司法の独立」、違憲立法審査権、裁判所の審級と裁判員制度 14. 財政…租税法律主義と予算制度、公の財産の支出又は利用の制限 15. 総括（日本国憲法の課題を考える）						
アクティブラーニング の取り入れ状況			質疑応答など対話形式を中心に進める他に、テキストの音読協力・板書問題への参加を求めます。レスポンスカードも配付します。(毎回)				
事 前 学 修(分／回)			日々、新聞・テレビ・ニュース等で報道される憲法の問題に関心を怠らず、テキストの該当部分と照合し、授業に臨んで欲しいと思います。なお、テキストは、シラバスの進行にこだわらず、あらかじめ通読し、疑問点・不明点などをチェックしておくとう理解が深まると思います。 (90 分)				
事 後 学 修(分／回)			メモ・ノートの整理と関連資料の自発的収集・チェック、次回講義時の質問事項のピックアップ等、忘れないうちに復習しておいて下さい。(90 分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法			課題レポートについては、添削の上、◎○△×の4段階評価を付して返却します。どこが問題なのか自身で確認して、何度でもチャレンジしてみてください。				
成績評価の方法と基準			定期試験 70%，課題レポート 20%，授業へのとりくみ 10%で評価します。				
教 科 書			伊藤正己「憲法入門〔第4版補訂版〕」有斐閣双書				
参 考 書 等			「六法」他，資料プリントを配付し，その都度指示したいと思います。				
オフィスアワー			授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験／その他			特になし				

授業科目 (英語)		保健と体育 (Health and physical education)		担当教員名		高橋 昇禎・岩渕 典仁	
科目ナンバー		Ⅱ A1①②-3		担 当 形 態		オムニバス	
開講年次・期間		1 年次・通年	単位数	2	授業時間／回数		60 時間・2 時間/週・30 回
授 業 形 態		演習	卒業・免許・資格等の必修		卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修		
到 達 目 標		①各種スポーツの技能等を習得することでスポーツに親しみ、健康づくりの意義を理解し余暇善用の技術、生涯スポーツのきっかけとなる体験をする。 ②ライフスタイルに応じた運動や生活習慣と健康やスポーツ文化、更にはスポーツ外傷等に対する応急手当や処置法、救急法（AEDや心肺蘇生法）等に関する基礎的な知識や技術を習得する。					
学位授与の方針との関連		専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身につける科目である。					
授 業 計 画							
授業の方法		実技及び板書と DVD を活用しながら講義形式で進める。場合によっては配付印刷物を用いて実践方法を説明し、実技を実施する。					
回		授 業 内 容					
		1. オリエンテーション並びに簡易体力測定 2. バレーボールの基礎練習 ①ボールを使用したトレーニング、サーブ（アンダー、変化球、フローター） 3. 〃 ②パス（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス）、サーブの基礎 4. 〃 ③トス（オープン、バック、2 段）、サーブ応用 5. 〃 ④スパイク（オープン、セミ、クイック等）、ブロック、簡易ゲームⅠ 6. 〃 ⑤レシーブ（サーブ、スパイク）、フォーメーションプレー、簡易ゲームⅡ 7. バレーボールの応用編 ①ルールと審判法、正規ゲームⅠ（リーグ戦） 8. 〃 ②正規ゲームⅡ（リーグ戦） 9. 〃 ③正規ゲームⅢ（リーグ戦） 10. 〃 ④正規ゲームⅣ（リーグ戦） 11. 〃 ⑤正規ゲームⅤ（リーグ戦）簡易バレーボール実技テスト 12. ソフトボールのルール説明、ボールの握り方、キャッチング、バットの握り方、走塁など 13. ソフトボールの基本練習 ①送球、守備位置でのノック、トスバッティング、簡易ゲーム 14. 〃 ②塁間キャッチボール、ハーフバッティング、簡易ゲーム 15. ソフトボールの応用編 ①簡易ゲーム（スローピッチングルールでのゲーム） 16. 〃 ②簡易ゲーム（ 〃 、守備・攻撃の戦術含む） 17. 〃 ③簡易ゲーム（ 〃 、 〃 ） 18. 〃 ④簡易ゲーム（ 〃 、 〃 ） 19. バasketボールの基本練習 ①パス→ショット、ドリブル→ショット、ジャンプショット 20. 〃 ②パス→ジャンプショット、三角パス 21. 〃 ③簡易ゲーム 22. バasketボールの応用編 ①正規ゲームⅠ（リーグ戦） 23. 〃 ②正規ゲームⅡ（リーグ戦） 24. 〃 ③正規ゲームⅢ（リーグ戦）、 25. 〃 ④正規ゲームⅣ（リーグ戦）簡易Basketボール実技テスト 26. 運動について ①体育とは、スポーツとは 27. 〃 ②体力とは、運動の必要性、動機づけとパフォーマンス 28. 〃 ③運動の実践（トレーニングについて）、運動と疲労、 29. 救急法の実践 ①AED：自動体外式除細動器、心肺蘇生法の実践 30. 〃 ②止血・骨折・熱中症の応急手当、スポーツ外傷に対する現場での処置					
アクティブラーニング の取り入れ状況		実習と実技（25 回）					
事 前 学 修(分／回)		戸内外の種目を問わず運動やスポーツに取り組み汗を流す習慣を心掛ける（20 分）授業時の服装はスポーツウェア、室内靴は指定運動靴、安全上ピアス、ネックレス等の装飾品を外し、髪の毛の長さが肩に掛かる際には、必ず束ねてから参加する。					
事 後 学 修(分／回)		講義授業後期限内にレポートを提出すること（25 分）					
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		レポートにコメントを記入し返却する。					
成績評価の方法と基準		授業への取り組み（60％）、レポートや簡易実技のテスト（40％）					
教 科 書		後日掲示する					
参 考 書 等		後日掲示する					
オフィスアワー		授業終了後教室で					
科目に関連する実務経験／その他		特になし					

授業科目 (英語)		幼児体育 (Infant physical education)		担当教員名		富田　夕子		
科目ナンバー		Ⅱ A2③-4			担　当　形　態		単独	
開講年次・期間		2 年次・前期	単位数	1	授業時間／回数		30 時間・2 時間/週・15 回	
授　業　形　態		演習	卒業・免許・資格等の必修		保育士必修			
到　達　目　標		1．幼児期における望ましい体力・運動能力の獲得を実現するために、軽快なビート感が特徴のエアロビックを中心に、知識や技術、指導方法を学修し、実践力を身につける。 2．保育者として自ら楽しく運動に取り組み、自身の体力の向上をめざす。 3．幼児の発育発達の特性と幼児の動きづくりと運動遊びの重要性を理解する。幼児体育の指導者に必要な知識を深め、実践的展開を支える基礎技能の習得を図る。 4．なぜ、子どもにとって遊びは重要なのか。幼児期における遊びの教育としての有効性とその必要性を理解する。						
学位授与の方針との関連		専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身につける科目である。						
授　業　計　画								
授業の方法	DVD を活用しながら実技形式で行う。							
回	授　業　内　容							
	1.　オリエンテーション、交流ゲームとレクリエーション 2.　ラジオ体操の実践①　自身の身体活動の積極性を高める 3.　ラジオ体操の実践②　基礎的な動作を確認し合う 4.　ラジオ体操の実践③　基礎的な動作を評価する 5.　幼児向け教室の実際　幼児の心身の発育発達、指導上の安全管理について理解する 6.　幼児親子向け教室の実際　保育者のマナー、保護者とのコミュニケーションについて理解する 7.　乳児親子向け教室の実際　保育者のマナー、保護者とのコミュニケーションについて理解する 8.　体操教室の実際①　マット運動の実践と補助の方法 9.　体操教室の実際②　跳び箱の実践と補助の方法 10. 体操教室の実際③　鉄棒の実践と補助の方法 11. 課題動作の指導方法①　エアロビックを取り入れた基本動作の課題ルーティンを理解する 12. 課題動作の指導方法②　実際にグループで動き方の確認を行う 13. 課題動作の指導方法③　実際にグループで指導実習を行い確認し合う 14. 課題動作の指導方法④　動き方や基礎的な指導技術を評価する 15. 評価とまとめ							
アクティブラーニング の取り入れ状況		実技（15 回）						
事　前　学　修(分／回)		戸内外の種目を問わず運動やスポーツに取り組み汗を流す習慣を心掛ける（20 分）						
事　後　学　修(分／回)		授業後期限内にレポートを提出すること（25 分）						
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		レポートにコメントを記入し返却する						
成績評価の方法と基準		授業の取り組み（60％）、レポートおよび試験（40％） 授業時の服装はフードのないスポーツウェア、室内靴は指定運動靴、安全上ピアス、ネックレス等の装飾品を外し、髪の毛の長さが目・肩に掛かる際には、必ず束ねてから参加する						
教　科　書		青野光子、松本典子編著「よい動きを引き出すための幼児体育」建帛社						
参　考　書　等		特に指定しない						
オフィスアワー		授業終了時体育館で						
科目に関連する実務経験／その他		仙台ジュニア体育研究所に勤務し幼児体操の指導にあたる						

授業科目 (英語)		基礎音楽 (Bacic music education)		担当教員名		清水 智子・岩渕 愛	
科目ナンバー		Ⅱ A1--5		担 当 形 態		複数	
開講年次・期間		1 年次・通年	単位数	2	授業時間／回数		60 時間・2 時間/週・30 回
授 業 形 態		演習	卒業・免許・資格等の必修		卒業必修		
到 達 目 標		①リズムの基本や楽譜の読み方をピアノだけでなくタッチベル・カホン等のアンサンブルを通して楽しく学ぶことができる。 ②「わらうべうた」を通して乳幼児の声域を理解し、[ラ]からはじまる音感教育を通して正しい音程で歌うことができる。 ③音楽の基礎学習の理解を深める。 ④子どもの自然な声、保育者の自然な声、ことばと声域を理解するとともに、乳幼児の音表現を理解する。 ⑤弾き歌いができるようになる。					
学位授与の方針との関連		乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につけるための科目である。					
授 業 計 画							
授業の方法		学修内容を説明した後、演習を行う。					
回		授 業 内 容					
		1. 音楽の楽しさを学ぶ（タッチベル、カホン、トーンチャイム）、楽譜の読み方（ト音記号、ヘ音記号、大譜表）（清水） 2. タッチベルでメロディ ハーモニー、バスを学ぶ、楽典の基礎 ドリル①（清水） 3. カホンでリズム打ちを学ぶ リズムと拍子について、楽典の基礎 ドリル②（清水） 4. 歌とタッチベルアンサンブル①かえるの歌（コードC）楽典の基礎 ドリル③（清水） 5. 歌とタッチベルアンサンブル②ちょうちょ（コードC, G7）楽典の基礎 ドリル④（清水） 6. 歌とタッチベルアンサンブル③キラキラ星（コードC, F, G7）、楽典の基礎 ドリル⑤（清水） 7. わらべうたによる[ラ]からの音域教育Ⅰ 歌とキーボードアンサンブル かえるの歌 、楽典の基礎 ドリル⑥（清水） 8. わらべうたによる[ラ]からの音域教育Ⅱ 歌とキーボードアンサンブル ちょうちょ 、楽典の基礎 ドリル⑦（清水） 9. わらべうたによる[ラ]からの音域教育Ⅲ 歌とキーボードアンサンブル わらべ歌の合唱、キラキラ星、楽典の基礎 ドリル⑧（清水） 10. カホンによるリズムアンサンブル、コードネーム（ハ長調 C-G7-Am-Em-F-C-F-G7）、楽典の基礎 ドリル⑨（清水） 11. コードネーム（ハ長調 C-G7-Am-Em-F-C-F-G7 にバスを付ける）、子どものうた、輪唱、楽典の基礎 ドリル⑩（清水） 12. コードネーム（ニ長調 D, G, A7）、こどものうた、手話をつけてうたう、楽典の基礎 ドリル⑪（清水） 13. コードネーム（ニ長調 D, G, A7）の曲を弾き歌いする、こどものうた、手話をつけてうたう、楽典の基礎 ドリル⑫（清水） 14. カホン、打楽器の基本的な使い方を学ぶ（清水） 15. コードネーム ハ長調とニ長調の曲に歌と手話、カホンをつける（清水） 16. 生活の歌にコードネームをつける・歌う① ハ長調の曲 （清水・岩渕） 17. 生活の歌にコードネームをつける・歌う② ニ長調の曲 （清水・岩渕） 18. 生活の歌にコードネームをつける・歌う③ ヘ長調の曲 （清水・岩渕） 19. 行事の歌にコードネームをつける・歌う① ハ長調の曲 （清水・岩渕） 20. 行事の歌にコードネームをつける・歌う② ニ長調の曲 （清水・岩渕） 21. こどもの歌にコードネームをつける・歌う① ハ長調の曲 （清水・岩渕） 22. こどもの歌にコードネームをつける・歌う② ニ長調の曲 （清水・岩渕） 23. こどもの歌にコードネームをつける・歌う③ ヘ長調の曲 （清水・岩渕） 24. 手遊びのレパートリー① 動物 （清水・岩渕） 25. 手遊びのレパートリー② じゃんけん （清水・岩渕） 26. 手遊びのレパートリー③ 食べ物 （清水・岩渕） 27. こどもの歌の簡単なアンサンブル① 手拍子、リズム楽器 （清水・岩渕） 28. こどもの歌の簡単なアンサンブル② 拍子と指揮法 （清水・岩渕） 29. 生活・行事の歌のまとめ （清水・岩渕） 30. こどもの歌のまとめ （清水・岩渕）					
アクティブラーニング の取り入れ状況		歌や拍子に対するイメージをディスカッションする。（15 回）楽器を演奏する、歌を歌うなどの実技を行う。（30 回）					
事 前 学 修(分／回)		①課題曲の歌は歌詞を覚え、正しい音程で歌えるようにする。②歌のリズム奏をしてリズムを覚える。③ピアノ曲は和音奏を弾けること （20 分）					
事 後 学 修(分／回)		①歌、リズム、コードを別々に練習してから、コードネーム伴奏で歌えるように練習しておく。 ②毎時間手遊びをする。③楽典の基礎ドリルを復習する （25 分）					
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		課題に対してコメントをする。					
成績評価の方法と基準		前期試験：キーボード課題とこどものうた、わらべうたの発表 解説及び総括（清水） 後期試験：実技試験（清水） ①歌試験 20％、②伴奏試験 20％、③弾き歌い試験 40％、通常授業における課題曲の状況評価 20％によって評価する。					

教 科 書	植田光子（2006）「手遊び百科-「いつ」「どのように」使えるかがわかる!!」ひかりのくに 全国大学音楽教育学会編著（2013）「明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌・唱歌童謡 140 年の歩み」音楽之友社 植田光子・高後堂愛子・木許隆 編著（2017）「楽しい音楽表現」圭文社
参 考 書 等	プリント教材「弾き歌い、朝昼おかえりの歌」、「弾き歌い、季節の歌・行事の歌」
オフィスアワー	授業終了時教室で
科目に関連する実務経験／その他	岩渕：保育士および幼稚園教諭として勤務

授業科目 (英語)		幼児音楽 (Music education for infants)		担当教員名		清水 智子・岩渕 愛		
科目ナンバー		Ⅱ A2--6			担 当 形 態		複数	
開講年次・期間		2 年次・前期	単位数	1	授業時間／回数		30 時間・2 時間/週・15 回	
授 業 形 態		演習		卒業・免許・資格等の必修		卒業必修		
到 達 目 標		① 正しい音程で歌うことができる。 ② 正しいリズムを奏でることができる。 ③ 曲にコードネーム伴奏をつけることができる。 ④ 弾き歌いのレパートリーを増やすことができる。						
学位授与の方針との関連		乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につける科目である。						
授 業 計 画								
授業の方法	学修内容を説明した後、演習を行う。							
回	授 業 内 容							
	1. 弾き歌い①おはようの歌（清水・岩渕） 2. 弾き歌い②お弁当の歌（清水・岩渕） 3. 弾き歌い③おかえりの歌（清水・岩渕） 4. コードネーム①ハ長調のスリーコードとハ長調の曲の弾き歌い（清水・岩渕） 5. コードネーム②CF・G7 の伴奏付けをする（清水・岩渕） 6. コードネーム③ニ長調のスリーコードとニ長調の曲の弾き歌い（清水・岩渕） 7. コードネーム④DG・A7 の伴奏付けをする（清水・岩渕） 8. 年齢別の手遊び・歌の実践（コードネーム伴奏）（清水・岩渕） 9. 生活の歌・遊びの実践（コードネーム伴奏）（清水・岩渕） 10. 季節の歌・遊びの実践（コードネーム伴奏）（清水・岩渕） 11. 行事の歌・遊びの実践（コードネーム伴奏）（清水・岩渕） 12. 動物、食べ物、ジャンケンなどのいろいろな手遊びの実践（清水・岩渕） 13. 子どもの歌の簡単なアンサンブル①手拍子・リズム楽器・指揮法（清水・岩渕） 14. 子どもの歌の簡単なアンサンブル②合唱・指揮法（清水・岩渕） 15. 実技のまとめ（清水・岩渕）							
アクティブラーニング の取り入れ状況		歌に対するイメージを考え、ディスカッションする。（15 回） 楽器を演奏し、歌を歌う。（15 回）						
事 前 学 修(分／回)		課題曲を練習する。（20 分）						
事 後 学 修(分／回)		授業中に見つけた課題を克服する。（25 分）						
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		授業中にレポートに対してコメントを行う。						
成績評価の方法と基準		①ピアノ試験 20%②伴奏試験 20%、③弾き歌い試験 40%、通常授業における課題曲の状況評価 20% によって評価する。						
教 科 書		植田光子（2006）「手遊び百科-「いつ」「どのように」使えるかがわかる!!」ひかりのくに 全国大学音楽教育学会編著（2013）「明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌・唱歌童謡 140 年の歩み」音楽之友社 植田光子・高後堂愛子・木許隆 編著（2017）「楽しい音楽表現」圭文社						
参 考 書 等		プリント教材「弾き歌い、朝昼おかえりの歌」、「弾き歌い、季節の歌・行事の歌」						
オフィスアワー		授業終了時教室で						
科目に関連する実務経験／その他		岩渕：保育士および幼稚園教諭として勤務						

授業科目 (英語)	基礎造形 (Basic expression)			担当教員名	皆川 理奈
科目ナンバー	Ⅱ A2③-7			担 当 形 態	単独
開講年次・期間	1 年次・前期	単位数	1	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態	演習	卒業・免許・資格等の必修		保育士選択必修	
到 達 目 標	造形活動に必要な材料や用具について理解する。感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。 ・水、砂、土、紙、粘土など様々な素材にふれて楽しむ。 ・様々な形や色に気付いたり、感じたりして楽しむ。				
学位授与の方針との関連	乳幼児を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	乳幼児を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につけるための科目である。				
回	授 業 内 容				
1. オリエンテーションと造形活動のためのストレッチ（クレヨン・画用紙・ペン） 2. 偶然性を楽しむ ビー玉転がし・ドリップング・風船スタンプ（ビー玉・スポイト・ストロー・風船・画用紙） 3. 現象を味わう 染め紙・色遊びの展開（水彩絵具・障子紙） 4. 生活の中を探す フロッタージュ・押し花（コピー用紙・色鉛筆・クーピー） 5. 絵の具に触れる 絵の具遊びの展開・色の知識の学習（水彩絵具・画用紙） 6. 模様を作る 技法を使い独自の柄を作成（水彩絵具・トレーシングペーパー・廃材） 7. 刃物で作る① 道具の使い方・適正・切り出される形の印象を学ぶ（はさみ・カッター・キリなど） 8. 刃物で作る② 平面を立体に 展開図から成立する立体のパターンを学び、それを応用し作品を作る 9. 粘土で遊ぶ 粘土の知識を学び、粘土を使った制作・遊びの展開を考える 10. 形に残らない造形遊び 様々な素材・要素を用いた造形遊びについて（砂・小石・小枝・光・風・水など） 11. 素材の再構築① 羽を作る エリックカールを参考に 制作するモチーフを決定、構想 12. 素材の再構築② 部分から全体へ 鳥を描く 2～6 までの作品を用いて各自制作（厚紙・ボンド） 13. 廃材を活用する 廃材利用の作品・造形活動に使える素材の紹介、各自構想、制作 14. 名画からのヒント マティスやモネ、ミロ、カンディンスキーなどの名画を用い、造形活動の展開について考える 15. 観察して描く 用意されたモチーフを観察する、観察した内容を他者に伝える方法を考える					
アクティブラーニング の取り入れ状況		制作の構想段階でグループワークを行う。（3 回）			
事 前 学 修(分／回)		次回の制作課題について告知を行い、必要であれば各自素材、資料の準備をする。（20 分）			
事 後 学 修(分／回)		課題作品と制作レポートについて期限内に提出する。（25 分）			
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		完成作品を教室や廊下に掲示し、相互鑑賞できるようにする。制作レポートにはコメントして返却する。			
成績評価の方法と基準		課題作品の提出 70%、レポート 20%、授業への貢献度 10%			
教 科 書		特に指定しない。授業時に適宜資料を配付する。			
参 考 書 等		樋口一成 編著 「幼児造形の基礎」 萌文書林			
オフィスアワー		授業終了時教室で			
科目に関連する実務経験／その他		幼児施設での造形表現教室教師			

授業科目 (英語)		英語 I (English I)		担当教員名		ルイス・ウィリアム・オスカー4 世	
科目ナンバー		I A2①②-8		担 当 形 態		単独	
開講年次・期間		1 年次・前期	単位数	1	授業時間／回数		30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態		演習	卒業・免許・資格等の必修		幼稚園教諭必修・保育士必修		
到 達 目 標		・英語を読む、聞く、話す、書く活動を通して、基本的な運用力を高め、幼児の英語指導の一助とすることができる。 ・外国語学習を通して、国際的な視野を広げ、併せて日本語の理解を深め、コミュニケーション能力を高める。					
学位授与の方針との関連		・社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための科目である。					
授 業 計 画							
授業の方法		板書、DVD、テキスト、配付印刷物を用いて、演習を中心とした授業を行う。					
回		授 業 内 容					
		1. Orientation for new students Self-Introduction. Introduce your partner to others. 2. Unit 0 Welcome to English Firsthand 1. You can improve your English by using this textbook. 3. Unit 1 It’ s nice to meet you. Where are you from? How do you know Cris? 4. Unit 1 What does she do? Images of my life. Let me introduce myself. 5. Unit 2 Who are they talking about? Use the tasks in this book. What do they look like? 6. Unit 2 Do you want to see some picture? Spy catcher! 7. Unit 2 Tell me about your family. The world’ s biggest family. 8. Unit 3 When do you start? Daily activities What do you do all day? 9. Unit 3 What are you doing Friday night? How well do you know me? 10. Unit 3 How well do you know me? How often do you …? A balanced life 11. Unit 4 Omitted Unit 5 How do I get there? Directions Where is it? Excuse me. 12. Unit 5 It’ s across from the park. 13. Unit 5 Taxi! My farewell party! 14. Unit 6 What happened? Past activities Tell me about yourself. How was your weekend? 15. Unit 6 Pairwork Where didi you go? Talk about a time … Unlucky day!					
アクティブラーニング の取り入れ状況			毎回問答形式の演習（Listen & Speak）を行った後で、ペアワークを行う。（15 回） グループワーク、ディスカッション、対戦形式の英問・英答（Baseball Game）（2 回）				
事 前 学 修(分／回)			授業前に次の範囲を確認し、単語・重要語句を辞書で調べておくこと。（90 分）				
事 後 学 修(分／回)			学習したことをノートにまとめる。書き込み式のテキストの点検を受ける。（90 分）				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法			単元ごとの確認テストを行った後、解答の解説を行う。 レスポンスカード、レポート、提出物にコメントを記入し返却する。				
成績評価の方法と基準			定期試験 40%、Interview Test （英問・英答試験 2 回） 30%、 単元テスト・Essay（作文） 20%、授業内における発言・ディスカッション 10%				
教 科 書			石黒昭博・山内信幸・北林利治・赤楚治之 著 『English Composition at Work 表現のための発信型英作文』金星堂				
参 考 書 等			英語辞書に関しては特に指定しません。高校時代のもので可。電子辞書は可。 スマートフォンは、不可。				
オフィスアワー			授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験／その他			高等学校英語教諭				

授業科目 (英語)	英語Ⅱ (English Ⅱ)			担当教員名	ルイス・ウィリアム・オスカー4 世
科目ナンバー	Ⅰ A2--9			担 当 形 態	単独
開講年次・期間	2 年次・後期	単位数	1	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態	演習	卒業・免許・資格等の必修			
到 達 目 標	外国語学習を通して豊かな教養を身につけ、社会のさまざまな場面や保育現場で必要とされるコミュニケーション能力を高める。				
学位授与の方針との関連					
授 業 計 画					
授業の方法	社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための科目である。				
回	授 業 内 容				
1. Unit 1 First Step to Childcare English 2. Unit 2 Welcome to Minato Nursery School! 3. Unit 3 Time and Numbers 4. Unit 4 Directions 5. Unit 5 Davy Meets His Classmate Takashi 6. Unit 6 Dropping Davy Off and Picking Him Up 7. Unit 7 Jobs at Nursery School 8. Unit 8 Lunchtime 9. Unit 9 Toilet Dialog 10. Unit 10 Fighting 11. Unit 11 Injuries and Illnesses 12. Unit 12 Telephone Calls 13. Unit 13 Field Trip 14. Unit 14 Graduation Day 15. 授業のまとめ					
アクティブラーニング の取り入れ状況		演習 (14 回)			
事 前 学 修(分／回)		授業前に次のプリントを読み、重要語句について調べておくこと。(20 分)			
事 後 学 修(分／回)		毎授業後期限内にレポートを提出すること。(25 分)			
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		レポートにコメントし返却します。			
成績評価の方法と基準		授業内の発表 50%と課題 50%			
教 科 書		講義プリントを配付する。			
参 考 書 等		赤松直子・久富陽子著 『保育の英会話』 萌文書林 英和辞典 (指定はなし)			
オフィスアワー		授業終了時教室で			
科目に関連する実務経験／その他		高等学校英語教諭			

授業科目 (英語)	情報機器演習 (Operation of the information system)			担当教員名	小林 健一
科目ナンバー	Ⅱ A2①-10			担 当 形 態	単独
開講年次・期間	1 年次・前期	単位数	2	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態	演習	卒業・免許・資格等の必修		幼稚園教諭必修	
到 達 目 標	コンピュータの基本的な知識や技術を、演習を通して身につけ、社会活動や教育活動に役立てることができる。 1. インターネット利用上のモラルや危険性を理解し、正しい情報モラルがわかる。 2. 図書館利用、文献検索、データベース活用などを学び、課題解決のための情報を検索することができる。 3. 情報を分析評価し整理することができる。 4. 様々な文書、表計算、グラフ、スライド等作成の演習を通して、レポート、論文、プレゼンテーションなどの情報発信ができる。				
学位授与の方針との関連	専門的知識・技術を実際の場面に応用する力を身につける科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	課題を明示し、重要な事項について説明し、演習を行う。適宜、課題の提出と発表を求める。				
回	授 業 内 容				
1. ガイダンス、自己紹介、Office365 のアカウントについて 2. 電子メールの利用、インターネットの活用と注意すべき点 3. インターネットを活用した情報収集、文献検索、公開データベース活用、Word の基本操作 4. Windows の共通操作（ファイル操作、クリップボード）、著作権の基本、演習：旅行計画書の作成準備（情報収集） 5. Word の機能紹介（ページ設定、行揃え、文字の装飾）、演習：旅行計画書の作成 6. Word の機能紹介（画像挿入、印刷）、演習：旅行計画書の完成、フォームを使ったクイズやアンケートの作成、共同編集 7. Excel の基本操作（演算子と計算式、セルの参照、罫線）、演習：履歴書様式の作成 8. Excel の機能紹介（関数を使った計算、ソート）、演習：表計算 9. Excel の機能紹介（グラフの作成① 基本）、演習：グラフの作成（折れ線グラフ） 10. Excel の機能紹介（グラフの作成② 応用）、演習：グラフの作成（円グラフ、各種棒グラフ） 11. PowerPoint の基本操作と機能紹介（アニメーション、スライドショー）、演習：簡単なスライドの作成 12. PowerPoint を使ったスライド作成演習①（テーマ選定、資料の収集、内容の作成） 13. PowerPoint を使ったスライド作成演習②（アニメーションや装飾の追加、スライドの完成、発表練習） 14. PowerPoint を使ったプレゼンテーション①（発表者・発表順はランダムに決定） 15. PowerPoint を使ったプレゼンテーション②（第 14 回に発表していない人が発表）、まとめ					
アクティブラーニング の取り入れ状況		演習およびプレゼンテーション（15 回）			
事 前 学 修(分／回)		事前に教科書を読み、高校などで行った内容を復習しておくこと。積極的にコンピュータや使用する office ソフトを使用してみること。(20 分)			
事 後 学 修(分／回)		授業で学んだ内容を確認し、期限内に課題を提出すること。(25 分)			
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		提出課題に対してのコメントをフィードバックする。			
成績評価の方法と基準		演習への取り組み（20%）、提出課題（70%）、および発表（10%）を総合して評価する。			
教 科 書		若山芳三郎（著）「学生のための情報リテラシー Office2021・Microsoft 365 対応」東京電機大学出版局（2022/10/10），ISBN：978-4501557805			
参 考 書 等		特に指定なし。			
オフィスアワー		授業終了時教室で			
科目に関連する実務経験／その他		特になし			

授業科目 (英語)		子どもと健康 (Childhood care and wellness)		担当教員名		千葉 正		
科目ナンバー		Ⅱ B1①②-1			担 当 形 態		単独	
開講年次・期間		1 年次・前期	単位数	1	授業時間／回数		30 時間・2 時間/週・15 回	
授 業 形 態		演習		卒業・免許・資格等の必修		卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修		
到 達 目 標		(1) 幼児期の健康課題について理解する。 (2) 幼児期の心身の発達と基本的な生活習慣の形成について理解する。 (3) 幼児の安全な生活のための教育と安全管理について理解する。 (4) 幼児の運動機能の発達と身体活動について理解する。						
学位授与の方針との関連		乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的知識が身についている。						
授 業 計 画								
授業の方法	重要事項について、配付資料及び板書により解説する。グループを作り、テーマを設定し調査を行い、プレゼンテーションをさせる。							
回	授 業 内 容							
	1. 健康の定義、健康に関する現代の課題、幼児の健康の定義 2. 幼児を取り巻く生活環境と健康に関する課題 3. 幼児期の身体的発達の特徴、生理的機能の発達 4. 幼児期の身体的発達の特徴と生活との関連 5. 幼児期の生活習慣の基礎的要素 6. 幼児の生活習慣の獲得及び生活リズムの形成 7. 幼児の安全教育（生活安全、交通安全の習慣、避難訓練、災害時などへの緊急対応） 8. リスクとハザードの違いの理解、安全への意識と態度を育むために必要なこと 9. 幼児の健康管理と病気の予防方法 10. 幼児期の怪我の特徴と予防方法 11. 幼児期の運動発達の特徴、運動コントロール能力の発達の理解 12. 幼児期の「多様な動き」の獲得とその意義 13. 日常生活における運動と環境との関連 14. 運動遊びの意義、豊かな遊びと動きの体験 15. 運動遊び場面における内発的動機づけと遊びの要素							
アクティブラーニング の取り入れ状況		グループワークをした後グループでのプレゼンテーションを行う。（5 回）						
事 前 学 修(分／回)		シラバスを確認しそれに伴う要点を習得しておくこと。（2 0 分）						
事 後 学 修(分／回)		毎授業後期間内に、与えられた課題・レポートを提出する。（2 5 分）						
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		講義終了後に提出されたレポートに対し、コメントを記載し返却する。						
成績評価の方法と基準		定期試験（7 0 %）、授業の取り組み・討論への貢献度（3 0 %）						
教 科 書		文部科学省 幼稚園教育要領（平成2 9 年3 月告示） 内閣府、文部科学省、厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成2 9 年3 月告示）						
参 考 書 等		特に指定なし。						
オフィスアワー		体育館 2 階 301 研究室 月曜日 5 限						
科目に関連する実務経験／その他		特になし						

授業科目 (英語)	子どもと人間関係 (Chirdren and human relations)			担当教員名	中尾 彩子
科目ナンバー	Ⅱ B1①②-2			担 当 形 態	単独
開講年次・期間	1 年次・前期	単位数	1	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態	演習	卒業・免許・資格等の必修		卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修	
到 達 目 標	(1) こどもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。 (2) 幼児期の人間関係の発達について、学習理論の視点から理解する。				
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的知識を身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	スライドや資料映像を活用しながら理論を説明した後、ロールプレイ等を用いて演習を行う。				
回	授 業 内 容				
1. なぜ、人と関わることが大切なのかー「自分を知る」ことから始める 2. 現代社会と幼児の人間関係ー家庭・地域での経験と幼児教育に期待されるもの 3. 身近な大人との関係を基盤として育つ子ども 4. 自己主張と自己抑制の発達 5. 幼児期の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ちー個と集団の育ち 6. 幼児期の遊びや生活の中で見られる他児との関係性の育ち 7. 「ひとりでできる」と自己肯定感 8. 基本的生活習慣と社会化 9. 協同性の育ち①二項関係から三項関係へ 10. 協同性の育ち②目的や目標を共有しやり遂げる力の育ち 11. 幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ちー他律的な道徳観から自律的な道徳観へ 12. 保育者同士のかかわりー共通理解を図るためのコミュニケーション 13. 保護者とのかかわりーなぜ、保護者と良好な関係を築くことが大切か 14. 人間関係の広がりー家庭から園、そして地域へと広がりをみせる関係 15. 幼児期に育みたい資質・能力と人間関係ー乳児期から学童期以降の育ちのつながりを理解する					
アクティブラーニング の取り入れ状況		グループワーク及びロールプレイを行う。(5 回)			
事 前 学 修(分／回)		次回のテーマを確認し、それに沿った日常にあるエピソードを探すこと。(20 分)			
事 後 学 修(分／回)		毎授業後、取り扱ったテーマに係る箇所を幼稚園教育要領及び保育所保育指針からピックアップしノートにまとめること。(25 分)			
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		授業内でコメントや質問に対してコメントします。			
成績評価の方法と基準		レポート 50%, 毎授業後のレスポンスカードの内容 40%, 授業への貢献度 10%			
教 科 書		特に指定しない			
参 考 書 等		文部科学省「幼稚園教育要領」、内閣府 文部科学省 厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、厚生労働省「保育所保育指針」			
オフィスアワー		5 階 508 研究室 金曜日 4 限			
科目に関連する実務経験／その他		特になし			

授業科目 (英語)		子どもと環境 (Chirdren and environment)		担当教員名	福井 信夫	
科目ナンバー		Ⅱ B1①②-3		担 当 形 態	単独	
開講年次・期間		1 年次・前期	単位数	1	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態		演習	卒業・免許・資格等の必修		卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修	
到 達 目 標		① 乳幼児を取り巻く環境の諸側面と幼児の発達におけるそれらの重要性について説明できる。 ② 乳幼児と環境とのかかわり方について専門的概念を用いて説明できる。 ③ 乳幼児を取り巻く環境の現代的課題について説明できる。 ④ 乳幼児期の認知的発達の特徴と道筋を説明できる。 ⑤ 乳幼児の物理的、数量・図形、生物・自然との関わりの事象、標識・文字の環境、情報・施設に対する興味・関心、関わり方、理解の発達を説明できる。				
学位授与の方針との関連		乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につける科目である。				
授 業 計 画						
授業の方法	パワーポイントと配付印刷物を用いて学修内容を説明した後、演習を行う。					
回	授 業 内 容					
1. 環境の概念、乳幼児を取り巻く現代社会の環境とその課題 2. 保育活動における環境構成 3. 乳幼児の環境にかかわる力 4. 自然環境（1）乳幼児の動物概念の認知的発達、動物とのかかわりに関する活動 5. 自然環境（2）乳幼児の植物概念の認知的発達、植物とのかかわりに関する活動 6. 自然環境（3）身近な環境の観察 7. ネイチャーゲームの理論と実践 8. 飼育と栽培 9. ものの性質（1）紙、色、光に関する制作活動 10. ものの性質（2）磁石、水に関する制作活動 11. 数量・図形（1）幼児の数概念・量概念の認知的発達 12. 数量・図形（2）数に関する制作活動 13. 数量・図形（3）量に関する制作活動 14. 標識・文字・情報・施設 15. 海外の幼稚園における保育と自然体験への取り組み						
アクティブラーニング の取り入れ状況		グループあるいは個人で制作を行う。フィールドワークを行う。（6 回）				
事 前 学 修(分／回)		授業前に次回の範囲を読んで、重要語句について調べておくこと。（20 分）				
事 後 学 修(分／回)		授業後期間内にレポートを作成、提出すること。（25 分）				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		レポートにコメントを記入し、返却する。				
成績評価の方法と基準		授業における活動・制作（60%）、課題への取組み（20%）、授業への貢献度（20%）				
教 科 書		文部科学省 幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示）				
参 考 書 等		内閣府、文部科学省、厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示）				
オフィスアワー		授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験／その他		特になし				

授業科目 (英語)	子どもと言葉 (Children and words)			担当教員名	小山 祐二
科目ナンバー	Ⅱ B1①②-4			担 当 形 態	単独
開講年次・期間	1 年次・前期	単位数	1	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態	演習	卒業・免許・資格等の必修		卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修	
到 達 目 標	① 人間にとっての話し言葉や書き言葉などの意義や機能を理解し説明できる。 ② 乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気付きも含めて説明できる。 ③ 言葉への感覚を豊かにする言葉遊びなどの実践や基礎的な知識を身につける。 ④ 言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。 ⑤ 言葉を豊かにする実践を、乳幼児の発達の姿と合わせて説明できる。 ⑥ 乳幼児にとっての児童文化財の意義を理解し、基礎的な知識を身につける。				
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につける科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	板書とテキスト等を用いて、対話形式で行う。				
回	授 業 内 容				
1. 人間にとって「言葉」とは何か？－人間にとっての言葉の意義と機能 2. 言葉をどのように獲得するのか？－子どもの言葉の発達過程：誕生から、書き言葉（文字）習得まで 3. 「言葉に対する感覚」とは何か？①－言葉の美しさ、楽しさ（知る） 4. 「言葉に対する感覚」とは何か？②－言葉の美しさ、楽しさ（見つける） 5. 「言葉に対する感覚」とは何か？③－言葉の美しさ、楽しさ（伝える） 6. 言葉に対する感覚を豊かにする実践とは①－響きやリズムのある言葉あそび 7. 言葉に対する感覚を豊かにする実践とは②－読み聞かせや朗読 8. 言葉に対する感覚を豊かにする実践の実際①－子どもと楽しむ「言葉遊び」 9. 言葉に対する感覚を豊かにする実践の実際②－子どもと楽しむ「言葉遊び」 10. 「児童文化財」とは何か？－子どもにとっての「児童文化財」の意義、種類、歴史など 11. 言葉を育て、想像する楽しさを広げる「児童文化財」の実際①－「児童文化財」の世界の例 12. 言葉を育て、想像する楽しさを広げる「児童文化財」の実際②－「児童文化財」の日本の例 13. 言葉を育て、想像する楽しさを広げる「児童文化財」を用いた実践①－物語・紙芝居など 14. 言葉を育て、想像する楽しさを広げる「児童文化財」を用いた実践②－実践の振り返り 15. 言葉に対する興味・関心を育てる－豊かな言葉や表現					
アクティブラーニング の取り入れ状況	意見・疑問点等を求め対話を取り入れる。(3 回)				
事 前 学 修(分／回)	次時の内容について、事前に予習すること。(20 分)				
事 後 学 修(分／回)	学修内容を復習して、理解を深める。レポートを提出することもある。(25 分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法	課題の補足説明をする。質問については授業中に答える。				
成績評価の方法と基準	定期試験 (70%)、授業の取り組み (30%)				
教 科 書	秋田喜代美・三宅茂雄 監修 秋田喜代美・砂上史子編 (2020)『子どもの姿からはじめる領域・言葉』(株)みらい、文部科学省『幼稚園教育要領』、 内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』				
参 考 書 等	文部科学省『幼稚園教育要領』、内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験／その他	特になし				

授業科目 (英語)	子どもと表現 (Childhood education and composite arts)			担当教員名	清水 智子・岩渕 愛
科目ナンバー	Ⅱ B1①②-5			担 当 形 態	複数
開講年次・期間	1 年次・後期	単位数	1	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態	演習	卒業・免許・資格等の必修		卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修	
到 達 目 標	(1) 1) 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の基本をふまえ、領域「表現」のねらいと内容を理解する。 2) 乳幼児が経験し身につけていく内容を、発達の過程を通して理解する。 (2) 1) 音楽で表現する喜びと楽しさを実感し、他者との共感により豊かな表現力を身に付ける。 2) 歌う・聴く・弾く・動く・作るなどを通して、乳幼児期の表現活動を豊かに展開できる。 3) 他者と協働して、総合的な表現活動によるまとめを発表する。				
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につける科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	学修内容を説明したあと、演習を行う。				
回	授 業 内 容				
1. 領域「表現」のねらい及び内容を理解する。乳幼児教育において育みたい資質、能力を乳幼児の生活する姿から捉える。(清水) 2. 表現活動において「歌う」活動 生活や遊びの中にある声、音のおもしろさに気づく。応答的な表現活動を即興的に行う。(清水) 3. 豊かな表現のために① 季節や行事の曲を用いて、言葉の意味や情景が伝わるような歌唱方法を身につける。(清水) 4. 豊かな表現のために② 季節の歌を用いて、その楽譜、歌詞および歌のイメージを著わした絵本（歌の絵本）を製作し発表する（清水） 5. 豊かな表現のために③ 春のうた絵本製作（清水） 6. 豊かな表現のために④ 夏・秋のうた絵本製作（清水） 7. 豊かな表現のために⑤ 冬のうた絵本製作（清水） 8. 表現活動において「作る」活動 さまざまな活動を通して新しい発見をしたり、模倣したり、体験しながら創造的表現の喜びを感じる。(清水) 9. 協同して表現する① 絵本を題材にし、グループで、劇遊びミュージカルを製作し発表する 台本、配役、演技、小物、音楽の部門において、協同しながら実践する。(清水・岩渕) 10. 協同して表現する② 曲にダンス、音楽（伴奏）をつけ、ステージを作る（清水・岩渕） 11. 協同して表現する④ 発表をする。録画し、振り返りをする。(清水・岩渕) 12. 協同して表現する⑤ 伝承文化的な表現を題材にし、グループで、劇遊びミュージカルを制作し発表する。台本、配役、演技、小物、音楽の部門において、協同しながら実践する。(清水・岩渕) 13. 協同して表現する⑥ 進行表を作成し、総合的に舞台を演出する（清水・岩渕） 14. 協同して表現する⑦ ホールでのリハーサルをし、改善点を訂正する（清水・岩渕） 15. 協同して表現する⑧ 発表をする。録画し、振り返りを通して、改善点を探り、学びに向かう力を養う。(清水・岩渕) 16. 総合的な表現活動を具体的に考える。音響、照明を入れ、学修のまとめを発表する。 定期試験は実施しない。 17. 協同して表現する⑧ 発表をする。録画し、振り返りを通して、改善点を探り、学びに向かう力を養う。(清水・岩渕) 18. 総合的な表現活動を具体的に考える。音響、照明を入れ、学修のまとめを発表する。 定期試験は実施しない。					
アクティブラーニング の取り入れ状況	音やリズムに対するイメージをディスカッションする。(10 回)。				
事 前 学 修(分／回)	授業中に出した課題を練習、作業する。(20 分)				
事 後 学 修(分／回)	授業で指摘されたことを練習により克服する。(25 分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法	授業中に一つのテーマでコメントする。				
成績評価の方法と基準	授業での表現活動への取り組み状況 (60%)、発表内容 (40%)				
教 科 書	高御堂愛子・植田光子・木許隆編著 幼稚園教諭・保育士をめざす楽しい音楽表現（圭文社）				
参 考 書 等	文部科学省 幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示）内閣府、文部科学省、厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年告示）				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験／その他	岩渕：保育士および幼稚園教諭として勤務				

授業科目 (英語)		身体表現 (Physical expression)		担当教員名		富田　　夕子		
科目ナンバー		Ⅱ B2①③-6			担　当　形　態		単独	
開講年次・期間		2 年次・前期	単位数	1	授業時間／回数		30 時間・2 時間/週・15 回	
授　業　形　態		演習	卒業・免許・資格等の必修		幼稚園教諭必修・保育士選択必修			
到　達　目　標		(1) 幼児の遊びや生活での身体的な表現を理解し、見出し、受け止め、共感できる。 (2) 様々なものごとに対し、感じる・みる・聴く・楽しむ視点をもって臨み、それを身体的な活動に結びつけて、表現できるようになる。 (3) 身体で表現する楽しさを実感し、楽しさを生み出す要因について分析できる。 (4) 協同し身体表現することで他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現にする。 (5) 様々な身体的な表現の基礎的な技能を活かし、幼児の身体表現活動に展開できる。						
学位授与の方針との関連		専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身につけるための科目である。						
授　業　計　画								
授業の方法	授業内容を解説した後、実技を行う。							
回	授　業　内　容							
	1.　領域「表現」のねらい及び内容の理解、幼児の身体的な表現の発達の理解 2.　幼児の発達に応じた身体表現を具体的に知る 3.　生活の中のものごとを身体的な表現であらわす、個人表現 4.　生活の中のものごとを身体的な表現であらわす、他者への呼びかけと応答のある表現活動 5.　リズムのある音に合わせた身体表現 6.　音楽に合わせた身体表現 7.　ボールを使った身体表現 8.　器具を使った身体表現 9.　身近な素材を使った身体表現 10. ストーリーのある身体表現をグループワークでの創作、テーマ設定 11. テーマに基づいてグループワークによる身体表現の創作 12. グループでの身体表現の創作 13. 創作表現のグループごとの発表、相互評価の実施 14. 創作表現のグループごとの発表の DVD による発表 15. ICT を活用した表現活動の具体例　定期試験は実施しない							
アクティブラーニング の取り入れ状況		実技（13 回）						
事　前　学　修(分／回)		シラバスを確認し、それに関する動きを習得しておく（20 分）						
事　後　学　修(分／回)		与えられた課題についての動きの確認を実践する（25 分）						
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		グループ及び個人での発表について評価と改善の指導を行う。						
成績評価の方法と基準		発表（グループ、個人）(70%)、授業への参加度（グループ活動、個人活動）(30%)						
教　科　書		文部科学省　幼稚園教育要領（平成 2 9 年 3 月告示） 内閣府、文部科学省、厚生労働省　幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示）						
参　考　書　等		特に指定しない。						
オフィスアワー		授業終了時教室で						
科目に関連する実務経験／その他		富田　　仙台ジュニア体育研究所に勤務し幼児体操の指導にあたる						

授業科目 (英語)		造形表現 (Molding expression)		担当教員名	皆川 理奈	
科目ナンバー		Ⅱ B2①③-7		担 当 形 態	単独	
開講年次・期間		1 年次・後期	単位数	1	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態		演習	卒業・免許・資格等の必修		幼稚園教諭必修・保育士選択必修	
到 達 目 標		・基礎造形で学んだことを活用し、感じたことや考えたことを自分なりに表現できる。 ・実技を通して、幼稚園教諭や保育士としての実践力を身に着ける。				
学位授与の方針との関連		子どもに関する専門的な知識・技能を身につけるための科目である。				
授 業 計 画						
授業の方法		制作課題について、板書や配付資料で説明した後、実技を行う。				
回		授 業 内 容				
		1. 空間を作る① グループを決定 小さいころを思い出しながらアイデアを出し合う 2. 空間を作る② グループごとに話し合い、構想が決まり次第制作 (ダンボール・テープ) 3. 空間を作る② 引き続き制作 4. 空間を作る② 制作終了後グループごとに発表 5. 歩いて探す 野外散策をして自然の素材を採集・観察 (スタンピングなど) 6. 自然素材を使う 自然素材の保存方法を知り、活用を考える (すり潰す、割る、色の抽出など) 7. 集めた素材で彩る 各自形・デザインを構想・制作 (紙粘土・植物・石・タイル・貝) 8. 音を形にする① 身の回りにあるもので作られた楽器を知る、作る 9. 音を形にする② 身の回りにある素材でオリジナルの楽器を制作 (自然物・日用品・廃材) 10. 版画を知る① 版画の技法を学び、それをうい制作 11. 版画を知る② 版画の技法を使い今の自分を描く 12. 日常から素材を探す 身近な素材に造形の種を探す (新聞紙ほか) 13. 素材探究「木を知る」① 地域産業から素材の前後を学び、素材選択について考える 14. 素材探究「木を知る」② 調べる・考える 事例を調べ参考にしながら自分なりの構想を考える 15. 素材探究「木を知る」③ 作品またはマケット制作 制作終了後 発表、意見交換				
アクティブラーニング の取り入れ状況		制作に関してディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションを行う。(3 回) 制作終了後意見交換を行う。(3 回)				
事 前 学 修(分／回)		次回の制作課題について告知を行い、必要であれば各自素材、資料の準備をする。(20 分)				
事 後 学 修(分／回)		課題作品と制作レポートを期限内に提出する。(25 分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		完成作品を教室や廊下に掲示し、相互鑑賞できるようにする。制作レポートには、コメントして返却する。				
成績評価の方法と基準		課題作品 70%、レポート 20%、授業への貢献度 10%				
教 科 書		特に指定しない。授業時に適宜資料を配付する。				
参 考 書 等		文部科学省 幼稚園教育要領 (平成 29 年 3 月告示) 内閣府、文部科学省、厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成 29 年 3 月告示) 無藤隆監修、浜口順子編集代表 「新訂 事例で学ぶ保育内容＜領域＞表現」 萌文書林				
オフィスアワー		授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験／その他		幼児施設での造形表現教室教師				

授業科目 (英語)		保育内容「健康」の指導法 (Curriculum and methods for childhood (Health))		担当教員名		千葉 正	
科目ナンバー		Ⅱ B1①②-8		担 当 形 態		単独	
開講年次・期間		1 年次・後期	単位数	1	授業時間／回数		30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態		演習	卒業・免許・資格等の必修		卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修		
到 達 目 標		領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造、指導上の留意点を理解している。 (2) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 (3) 小学校の教科等とのつながりを理解している。 (4) 領域「健康」の保育構想において、幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れることの重要性を理解している。 (5) 情報機器及び教材の活用法を理解し、領域「健康」の保育構想に活用できる。 (6) 領域「健康」の指導案の構造を理解し、作成できる。 (7) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善できる視点を身につ					
学位授与の方針との関連		乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につける科目である。					
授 業 計 画							
授業の方法		板書により重要事項を解説する。グループによる発表活動を行なう。					
回		授 業 内 容					
		1. 保育における領域「健康」幼児期に育みたい資質・能力について 2. 「3つの視点」と「5領域」のなかの領域「健康」について 3. 「健やかに伸び伸びと育つ」と領域「健康」のねらい及び内容 4. 3歳以上児の保育にかかわるねらい及び内容のなかの健康 5. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校教科の連携 6. 健康管理と安全能力を育む 健康指導：交通安全や避難訓練の指導と安全能力を育む援助（特別な配慮を要する子供への指導を含む） 7. 健康な心と体を育む保育の実践（教材研究1）映像資料の活用 3歳児前半の指導計画と保育 ～心のよりどころとしての保育者の役割～ 8. 健康な心と体を育む保育の実践（教材研究2）映像資料の活用 3歳児後半の指導計画と保育 ～自己発揮を支える保育者の役割～ 9. 健康な心と体を育む保育の実践（教材研究3）映像資料の活用 4歳児の指導計画と保育 ～一人一人を生かす保育と保育者の役割～ 10. 健康な心と体を育む保育の実践（教材研究4）映像資料の活用 5歳児の指導計画と保育 ～育ちあい、学びあう～ 11. 健康な心と体を育む保育の構想（計画立案） 運動遊びを中心とした具体的な保育場面を想定した指導案作成の考え方 12. 健康な心と体を育む保育の構想（計画立案） 運動遊びの指導の実際 13. 健康な心と体を育む保育の実践（模擬保育） 幼児の動機づけや意欲を配慮し遊びを運動指導として 14. 健康な心と体を育む保育の評価と改善 ～幼児理解を保育の視点を基盤とした評価（振り返り） 15. 領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践～健康な心と体を育くむ活動についてのレポートを課す					
アクティブラーニング の取り入れ状況		グループワークをした後グループでのプレゼンテーションを行う（4回）					
事 前 学 修(分／回)		シラバスを確認しそれに伴う要点を習得しておくこと。(20分)					
事 後 学 修(分／回)		毎授業後期間内に、与えられた課題・レポートを提出する。(25分)					
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		講義終了後に提出されたレポートに対し、コメントを記載し返却する。					
成績評価の方法と基準		レポート（70%）、模擬授業の発表内容（30%）					
教 科 書		文部科学省 幼稚園教育要領（平成29年3月告示） 内閣府、文部科学省、厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）					
参 考 書 等		特に指定しない。					
オフィスアワー		体育館2階 301 研究室 月曜日5限					
科目に関連する実務経験／その他		特になし					

授業科目 (英語)	保育内容「人間関係」の指導法 (Curriculum and methods for childhood (Human relations))			担当教員名	中尾 彩子
科目ナンバー	Ⅱ B1①②-9			担 当 形 態	単独
開講年次・期間	1 年次・後期	単位数	1	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態	演習	卒業・免許・資格等の必修		卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修	
到 達 目 標	(1) 幼稚園教育要領等に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容について理解する (2) 子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導ができる。				
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につける科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	スライドや資料映像を活用しながら理論を説明した後、模擬保育等の演習を行う。				
回	授 業 内 容				
1. 領域「人間関係」がめざすものー社会・文化の中で生きる子どもー 2. 園で安定感のある生活を形成するための援助のあり方ー一人一人の発達特性と集団保育の展開ー 3. 自立心を育む援助ー発達に沿った必要な援助と環境構成を考える 4. 友だちとの遊びの中で様々な感情を経験し、自他の気持ちに気付く援助のあり方ーけんかの事例から援助について考えるー 5. 自他の気持ちの違いに気付き、自分の気持ちを調整する力を育む援助のあり方ー折り合いがつかない事例を考えるー 6. きまりをめぐる様々な子どもの葛藤と援助ー子どもに経験させたい園生活や社会生活のきまりと内容を考えるー 7. ルールのある遊びと援助ー仲間も楽しめるきまりをつくるー 8. 個の育ちと共同性の育ちを考えるー事例から対象児に対する支援、他児に対する支援、物的環境の調整、保護者支援を考えるー 9. 協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開を考えるー見通しや振り返りを活かすー 10. 子どもにとって意味のある行事のねらいと活動内容を考えるー月ごとの協同的な活動展開を考える 11. 模擬保育を通した振り返り①ーグループごとに模擬保育を行うー 12. 模擬保育を通した振り返り②ー他グループの模擬保育の評価と改善点を検討するー 13. 模擬保育を通して保育を改善する視点を身に付けるー他グループからの評価を基に改善するー 14. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校以降の接続を考えるーかかわりの育ちと幼小接続期を考えるー 15. 領域「人間関係」を取り巻く現代的課題と動向・まとめ 定期試験は実施しない					
アクティブラーニング の取り入れ状況	グループワーク及び模擬保育を行う。(15 回)				
事 前 学 修(分／回)	模擬保育を行うための指導案を作成する。(20 分)				
事 後 学 修(分／回)	模擬保育での改善点を検討し、指導案を修正する。(25 分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法	リアクションペーパー等の内容を授業内でコメントします。				
成績評価の方法と基準	指導案 50%, 授業への貢献度 40%, 毎授業後のレスポンスカードの内容 10%				
教 科 書	特になし				
参 考 書 等	文部科学省「幼稚園教育要領」 内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 厚生労働省「保育所保育指針」				
オフィスアワー	5 階 508 研究室 金曜日 4 限				
科目に関連する実務経験／その他	特になし				

授業科目 (英語)	保育内容「環境」の指導法 (Curriculum and methods for childhood (Environment))			担当教員名	中島 元子
科目ナンバー	Ⅱ B1①②-10			担 当 形 態	単独
開講年次・期間	1 年次・後期	単位数	1	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態	演習	卒業・免許・資格等の必修		卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修	
到 達 目 標	(1) 領域「環境」のねらい、内容、全体構造、指導上の留意点を理解している。 (2) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 (3) 領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と小学校以降の教科等とのつながりを理解する。 (4) 乳幼児の心情、認識、思考、動きを視野に入れた保育構想の重要性を理解する。 (5) 領域「環境」の特性と幼児の体験との関連を考慮した情報機器の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。 (6) 指導				
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につける科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	パワーポイントと配付印刷物を用いて学修内容を説明した後、演習を行う。				
回	授 業 内 容				
1. 環境にかかわる現代的課題、領域「環境」のねらいと内容、5 領域における領域「環境」の位置づけ 2. 乳幼児の発達と環境構成、小学校の諸教科とのつながり 3. 領域「環境」の展開の実際①（園内活動準備） 4. 領域「環境」の展開の実際②（園内活動） 5. 受講生による指導計画の立案（身の回りの科学Ⅰ） 6. 受講生による模擬保育（身の回りの科学Ⅰ） 7. 模擬保育の振り返り（身の回りの科学Ⅰ） 8. 受講生による指導計画の立案（身の回りの科学Ⅱ） 9. 受講生による素材収集（身の回りの科学Ⅱ） 10. 受講生による模擬保育（身の回りの科学Ⅱ） 11. 模擬保育の振り返り 12. 標識・文字等に関わる保育の実際 13. 数量・図形等に関わる保育の実際 14. 生活に関係の深い情報や施設に関わる保育の実際 15. 環境に関わる現代的課題と解決への試み 定期試験は実施しない					
アクティブラーニング の取り入れ状況		グループワーク後、指導計画を立案する。計画に従い模擬保育を行った後、良い点、課題点等を議論する。（6 回）			
事 前 学 修(分／回)		授業前に次回の課題を読んで、関連事項について調べておくこと（20 分）			
事 後 学 修(分／回)		授業後期限内に課題を提出すること（25 分）			
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		課題にコメントを記入し返却する。			
成績評価の方法と基準		指導計画の作成・模擬授業の実施 60%、課題への取組み 20%、授業への貢献度 20%			
教 科 書		文部科学省 幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示）			
参 考 書 等		内閣府、文部科学省、厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年告示）			
オフィスアワー		授業終了時教室で			
科目に関連する実務経験／その他		特になし			

授業科目 (英語)	保育内容「言葉」の指導法 (Curriculum and methods for Childhood (Words))			担当教員名	小山 祐二
科目ナンバー	Ⅱ B1①②-11			担 当 形 態	単独
開講年次・期間	1 年次・後期	単位数	1	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態	演習	卒業・免許・資格等の必修		卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修	
到 達 目 標	① 領域「言葉」のねらい、内容、構造、指導上の留意点、評価の考え方を理解する。 ② 領域「言葉」に関わる内容と小学校の教科等とのつながりを理解する。 ③ 乳幼児の心情、認識、思考、動きを視野に入れた保育構想の重要性を理解する。 ④ 領域「言葉」に関わる情報機器と教材の活用法を理解し、保育構想に活用できる。 ⑤ 指導案を作成し、模擬保育とその振り返りをし、保育改善の視点を身に付ける。 ⑥ 領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を理解する。				
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につける科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	板書とテキスト等を用いて、対話形式で行う。				
回	授 業 内 容				
1. 保育における「言葉」とは一幼稚園教育の基本と領域「言葉」のねらい及び内容 2. 子どもの言葉の発達過程 (1)－言葉を生む基盤と話し言葉の発達の道筋と指導上の留意点 3. 子どもの言葉の発達過程 (2)－書き言葉の発達の道筋と小学校における書き言葉とのつながりの理解 4. 言葉を育む環境構成と援助 (1)－話したい、聞きたい意欲を生む援助 5. 言葉を育む環境構成と援助 (2)－生活に必要な言葉の習得を支える援助 6. 言葉を育む環境構成と援助 (3)－言葉のすれ違いやうまく伝わらないもどかしさへの援助 7. 言葉を豊かにする環境構成と援助 (1)－言葉による伝え合いを育む援助 8. 言葉を豊かにする環境構成と援助 (2)－文字などで伝える楽しさを生み出す援助 9. 子どもの言葉を豊かにする教材：児童文化財－絵本・物語・紙芝居などの実際と保育の中での生かし方 10. 言葉への感覚を豊かにする実践：言葉遊び (しりとり・言葉集め)－その実際と保育の中での生かし方 11. 子どもの言葉を育む保育の実践－保育実践もしくは模擬保育にむけての保育観察と指導案 12. 子どもの言葉を育む保育の構想－領域「言葉」に関する具体的な保育場面を想定した指導案 13. 子どもの言葉を育む保育の実践－保育実践もしくは模擬保育、ICT の活用 14. 子どもの言葉を育む保育の評価と改善－ICT を活用し、保育実践もしくは模擬保育の振り返り 15. 「言葉」をめぐる現代的な課題と特別な配慮が必要な乳幼児への指導を踏まえた保育					
アクティブラーニング の取り入れ状況	意見・疑問点等を求め対話を取り入れる。(3 回)				
事 前 学 修(分／回)	次時の内容について、事前に予習すること。(20 分)				
事 後 学 修(分／回)	学修内容を復習して、理解を深める。レポートを提出することもある。(25 分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法	課題の補足説明をする。質問については授業中に答える。				
成績評価の方法と基準	定期試験 (70%)、授業の取り組み (30%)				
教 科 書	秋田喜代美・三宅茂雄 監修 秋田喜代美・砂上史子編 (2020)『子どもの姿からはじめる領域・言葉』(株)みらい、文部科学省『幼稚園教育要領』、 内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』				
参 考 書 等	文部科学省『幼稚園教育要領』、内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験／その他	特になし				

授業科目 (英語)	保育内容「表現」の指導法 (Curriculum and methods for childhood (Composite arts))			担当教員名	清水 智子・岩渕 愛・皆川 理奈
科目ナンバー	Ⅱ B1①③-12			担 当 形 態	オムニバス
開講年次・期間	1 年次・後期	単位数	1	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態	演習	卒業・免許・資格等の必修		卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士選択必修	
到 達 目 標	(1) 領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造、指導上の留意点を理解している。 (2) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 (3) 小学校の教科等とのつながりを理解している。 (4) 領域「表現」の保育構想において、幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れることの重要性を理解している。 (5) 情報機器及び教材の活用法を理解し、領域「表現」の保育構想に活用できる。 (6) 領域「表現」の指導案の構造を理解し、作成できる。 (7) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善できる視点を				
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につける科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	重要事項について解説する。グループによる発表活動を行なう。				
回	授 業 内 容				
1. 領域「表現」のねらい及び内容について理解する。幼児の表現あるいは表出の具体的な場面を挙げ、さらにその表現が広がる指導方法と留意点を考える。幼児期の表現活動と小学校の体育、生活、音楽、図画工作その他の教科との連続性について、具体的な実践例から考える。(清水) 2. 種々の情報から領域「表現」の保育実践の動向や課題を知り、自らの保育構想の向上に取り組む。インクルーシブ保育における表現活動や遊びの可能性について、様々な具体的な事例を通して理解し、保育構想への活用を考える。(清水) 3. 音楽表現の構想①－音遊び、音楽遊びの教材研究を行い、指導案の作成 (清水・岩渕) 4. 音楽表現の構想②－音楽的なねらいでの教材研究を行い、音楽表現の指導案を作成 (清水・岩渕) 5. 音楽表現の実践①－音遊びの模擬保育の実践、実践の省察、改善 (清水) 6. 音楽表現の実践②－音楽表現の模擬保育の実践、実践の省察、改善 (清水) 7. 総合的な音楽表現の構想－音楽発表会の行事を想定し、全体計画案作成、その中の個々の計画案作成 (清水) 8. 表現活動をビデオと DVD によって映像化する手法、著作権に対する理解 (清水) 9. 造形表現の構想①－生活の中から題材を見つけ出す視点や、制作までのプロセスについて考える (皆川) 10. 造形表現の構想②－個人で指導案の作成、グループごとに個人案を検証、実践案を決定、模擬保育準備 (皆川) 11. 造形表現の実践①－グループによる模擬保育の実践、実践の省察、相互評価 (皆川) 12. 造形表現の構想③－省察、相互評価を元に各自指導案の振り返り、改善 (皆川) 13. 造形表現の実践②－環境の構成について考える (皆川) 14. 造形表現の実践③－幼児に「伝える」ための工夫について考える (皆川) 15. 造形表現の実践③－思考の過程や感情の変化を伝えるドキュメント 作品のファイリング (皆川)					
アクティブラーニング の取り入れ状況		グループワークをした後グループでのプレゼンテーションを行う。(10 回)			
事 前 学 修(分／回)		シラバスを確認しそれに伴う要点を習得しておくこと (20 分)			
事 後 学 修(分／回)		授業後期間内に、与えられた課題・レポートを提出する (25 分)			
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		講義終了後に提出されたレポートに対し、コメントを記載し返却する。			
成績評価の方法と基準		授業の取り組み・討論への貢献度 (70%)、レポート (30%)			
教 科 書		授業中に適宜資料を配付する。			
参 考 書 等		高御堂愛子・植田光子・木許隆編著幼稚園教諭・保育士をめざす楽しい音楽表現 圭文社			
オフィスアワー		授業終了時教室で			
科目に関連する実務経験／その他		皆川：幼児施設での造形表現教室教師 岩渕：保育士および幼稚園教諭として勤務			

授業科目 (英語)		教育原理 (Educational principle)		担当教員名	佐々木 義孝	
科目ナンバー		Ⅱ B1①②-13		担 当 形 態	単独	
開講年次・期間		1 年次・前期	単位数	2	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態		講義	卒業・免許・資格等の必修		卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修	
到 達 目 標		(1) 教育学の基本的概念を身につけ、教育の目的及び機能の本質を理解する。 (2) 教育の歴史的変遷を俯瞰し、現在の教育にどのように結び付いているのかを理解する。 (3) 教育の思想や理念がどのように発展してきたのかを理解する。				
学位授与の方針との関連		乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につける科目である。				
授 業 計 画						
授業の方法		資料を配付し重要事項について講義する。				
回		授 業 内 容				
		1. オリエンテーション、教育の基本概念（教育の意義と役割、教育の必要性） 2. 教育と発達（発達段階と発達過程） 3. 教育と環境（幼児教育と認知能力の育成） 4. 日本の教育史（平安まで） 5. 日本の教育史（江戸まで） 6. 日本の教育史（近代） 7. 日本の教育史（戦時下・戦後まで） 8. 西洋の教育思想（主な教育者と著書） 9. 日本の教育思想（主な教育者と著書） 10. 日本の学校教育（近代学校の始まり） 11. 学校教育の意義（学校の機関・運営） 12. 学級の機能（学級の機能・役割） 13. 現代の教育課題（幼保小連携、小1 プロブレム） 14. 現代の教育課題（小中連携、中1 ギャップ） 15. 現代の教育課題（家庭と家族、家庭の問題）				
アクティブラーニング の取り入れ状況		学生が、これまでの既習の知識等を活用し、思考力・判断力、表現力が身に付くような主体的な学習の授業を行う。(15 回)				
事 前 学 修(分／回)		授業計画に示された内容について、毎回の授業の資料・課題を、事前に予習として調べたり、まとめたりして授業に臨む。(90 分)				
事 後 学 修(分／回)		授業で学習した内容を復習して、授業内容を理解するとともに、次時の授業の資料・課題について、事前に調べたりして予習をしておく。(90 分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		課題の補足説明をする。				
成績評価の方法と基準		試験（70％）授業への取り組み（30％）				
教 科 書		必要に応じて資料等を配付する。				
参 考 書 等		「保育原理」新基本保育シリーズ①（天野珠路、北野幸子）適宜紹介する。				
オフィスアワー		授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験／その他		特になし				

授業科目 (英語)		教職論と教育制度 (Theory of teacher's profession and education system)		担当教員名	吉瀬 献策	
科目ナンバー		Ⅱ B1①③-14		担 当 形 態	単独	
開講年次・期間		1 年次・前期	単位数	2	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態		講義	卒業・免許・資格等の必修		卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士選択必修	
到 達 目 標		(1) 公教育の担い手である教員の存在意義、教職の職業的特徴を理解する。 (2) 教職観の変遷を踏まえ今日の教員に求められる役割、基礎的な資質能力を理解する。 (3) 幼児、児童及び生徒への指導と校務含めた教員の職務の全体像を理解する。 (4) 教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解する。 (5) 教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解する。 (6) 校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し				
学位授与の方針との関連		乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につける科目である。				
授 業 計 画						
授業の方法	パワーポイントと配付資料を用いて学修内容を講義する。					
回	授 業 内 容					
	1. 教育の原理・理念と公教育 2. 教職観の変遷と教職の意義 3. 教員の職務（校務分掌等） 4. 教員の職務をめぐる現状と課題 5. 求められる教員の資質・能力 6. 保育の基本業務 7. 保育者が抱える現状と課題 8. 「チーム学校」について 9. 教育制度の基本原理 10. 地方教育行政の基本原理 11. 地方教育行政の変遷と現状 12. 保育制度 13. 教員のメンタルヘルス 14. 危機管理と学校の安全について 15. レポート論題に係る演習発表					
アクティブラーニング の取り入れ状況		課題とその解決策や疑問について、自ら発見、思考するような発問を準備する。(15 回) ペアやグループで討議させる。(2～3 回)				
事 前 学 修(分／回)		授業計画に示された内容について、資料調べによる知識の修得 (90 分)				
事 後 学 修(分／回)		授業内容の整理 (90 分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		レスポンスカード記載の疑問点や質問について、次時に解説する。				
成績評価の方法と基準		レポート評価 (70%) 講義への取組状況 (30%)				
教 科 書		特に指定しない。				
参 考 書 等		「教職概論改訂第 2 版」佐久間裕之編著 玉川大学出版部				
オフィスアワー		随時、学長室				
科目に関連する実務経験／その他		高等学校教諭				

授業科目 (英語)		教育心理学 (Educational psychology)		担当教員名		菊池 武剋		
科目ナンバー		Ⅱ B2①③c15			担 当 形 態		単独	
開講年次・期間		2 年次・後期	単位数	2	授業時間／回数		30 時間・2 時間/週・15 回	
授 業 形 態		講義	卒業・免許・資格等の必修		幼稚園教諭必修・保育士選択必修・准学校心理士必修			
到 達 目 標		(1) 幼児・児童・生徒の心身の発達について基本となる知識を学ぶ。 (2) 学習と動機づけについて基礎知識を得る。 (3) 個性を踏まえた学習活動の支援・指導の重要性を知る。						
学位授与の方針との関連		乳幼児期の子どもの認知的・情動的発達に関する心理学の基礎知識を身につけ、将来の教育実践の素地を醸成するための科目である。						
授 業 計 画								
授業の方法	板書とパワーポイントを活用しながら講義形式で進める。 適宜、ショートレポートを課し、解答を求める。							
回	授 業 内 容							
	1. この授業の進め方及び評価法等の案内：教育と心理学 2. 発達：乳児期の認知発達 3. 発達：幼児期の認知発達 4. 発達：児童期の認知発達【ショートレポート】 5. 学習：学習の原理① 学習（経験）と本能（遺伝） 6. 学習：学習の原理② 学習理論（古典的条件づけ・道具的条件づけ） 7. 学習：学習の原理③ 学習理論の応用（プログラム学習・認知行動療法）【ショートレポート】 8. 動機づけ：内発的動機づけと外発的動機づけ 9. 動機づけ：原因帰属・要求水準と目標設定【ショートレポート】 10. 自己効力感 11. 知能と性格：非認知的機能：性格とは何か 【ショートレポート】 12. 個性：人格の構造と個性、子供の人格形成と家庭・学級集団・教師 13. しつけとは何か 14. しつけ・教育・保育 15. 総括							
アクティブラーニング の取り入れ状況		ショートレポート等を用いて解答を求め、解説や質疑応答を行う。						
事 前 学 修(分／回)		授業前に次の講義内容をみて、重要語句について調べておくこと（90 分）						
事 後 学 修(分／回)		配付資料やノートを復習して、知識を確実なものとする（90 分）						
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		ショートレポートへの解説や質疑応答を行います。						
成績評価の方法と基準		試験（70％）と小問（30％）を併せた総合評価をする。						
教 科 書		特に指定しない。						
参 考 書 等		山岸明子「発達をうながす教育心理学」（新曜社）						
オフィスアワー		5 階 504 研究室 木曜日 4 限						
科目に関連する実務経験／その他		特になし						

授業科目 (英語)	特別支援教育 (Special needs education)			担当教員名	小川 博敬
科目ナンバー	Ⅱ B1①②c16			担 当 形 態	単独
開講年次・期間	1 年次・後期	単位数	2	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態	演習	卒業・免許・資格等の必修		卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修・准学校心理士必修	
到 達 目 標	特別な支援を必要とする幼児や児童の置かれている状況や特性について包括的に理解する。				
学位授与の方針との関連	幼児期を中心とした子どもに関する専門的な知識を身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	パワーポイントと配付印刷物を用いて説明を行った後、演習を行う。				
回	授 業 内 容				
1. 特別な支援を必要とする子どもたちの概要と発達障がい 2. 自閉スペクトラム症の診断基準と特性 3. 自閉スペクトラム症の示す行動障害①（自傷行動・他害行動） 4. 自閉スペクトラム症の示す行動障害②（器物破損・こだわり） 5. 自閉スペクトラム症の示す行動障害③（異食や過食・不適切な排泄） 6. 自閉スペクトラム症の示す行動障害への支援方法（アセスメント・行動分析・環境調整） 7. 自閉スペクトラム症と知的障がい 8. 知的障がいのない自閉スペクトラム症の理解と支援 9. 注意欠如多動症の特性と支援のあり方 10. 限局性学習症の特性と支援のあり方 11. 発達障がいと就学支援：特別教育の制度と理念 12. 発達障がいと虐待 13. 発達障がいと不登校・いじめ 14. 視覚障がい・聴覚障がいの理解と支援 15. 特別な支援を必要とする子どもたちの現状と課題					
アクティブラーニング の取り入れ状況	グループワークおよび対話を行う。（3 回）				
事 前 学 修(分／回)	次回の授業に関連する用語について調べておく（90 分）。				
事 後 学 修(分／回)	理解が不十分であった専門用語については、文献で確認しておく（90 分）。				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法	レスポンスペーパーに記載された質問内容については適宜説明を加える。				
成績評価の方法と基準	試験 70%、レスポンスペーパーの内容 30%				
教 科 書	授業中に適宜資料を配付する。				
参 考 書 等	必要に応じて説明する。				
オフィスアワー	授業終了後、教室にて対応。				
科目に関連する実務経験／その他	特になし				

授業科目 (英語)	保育課程総論 (General introduction to childcare curriculum)			担当教員名	今川 澄佳
科目ナンバー	Ⅱ B1①②-17			担 当 形 態	単独
開講年次・期間	1 年次・後期	単位数	2	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態	講義	卒業・免許・資格等の必修		卒業必修・幼稚園教諭必修・保育士必修	
到 達 目 標	・ 保育内容の充実と質の向上に資するための計画と評価について理解する。 ・ 教育課程・全体計画の編成と指導計画の作成の基礎的な知識を身につける。				
学位授与の方針との関連	乳幼児期の養護と教育に関する基本的な専門的知識を身につける科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	パワーポイントやD V Dを活用し、講義とグループワークを取り混ぜながら進める。				
回	授 業 内 容				
1. 保育・教育課程の意義 2. 保育の計画と評価 3. 指導計画の考え方 4. 指導計画の作成と展開 5. 0 歳児の養護と保育内容 ・ 計画の実際 6. 0 歳児の記録の実際 7. 1 歳児の保育と指導計画 8. 2 歳児の保育と指導計画 9. 3 歳児の保育と指導計画 10. 3 歳児の指導案の実際と保育の展開・まとめ 11. 4 歳児の保育と 指導計画 12. 5 歳児の保育 と 指導計画 13. 5 歳児の特徴的な活動・まとめ 14. 保育課程における家庭との連携 15. 普遍的なカリキュラムを目指して					
アクティブラーニング の取り入れ状況		保育映像や講義をもとにペア・グループになり討議する。			
事 前 学 修(分／回)		授業計画に示された内容について、資料などを読み知識を得ておくこと。(90 分)			
事 後 学 修(分／回)		授業内容を整理しておくこと。(90 分)			
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		レスポンスカードについては、講義の中でコメントします。課題・演習についても、講義の中で解説します。			
成績評価の方法と基準		筆記試験 (70%) 授業への取り組み (30%)			
教 科 書		特に指定しない			
参 考 書 等		・ 文部科学省 「幼稚園教育要領解説」 ・ 厚生労働省「保育所保育指針解説書」 ・ 内閣府、文部科学省、厚生労働省「幼保連携型こども園教育・保育要領解説」			
オフィスアワー		授業終了後、教室にて対応。			
科目に関連する実務経験／その他		小学校教諭			

授業科目 (英語)		幼児理解と教育方法 (Understanding children and method of education)		担当教員名	佐藤 茂樹	
科目ナンバー		Ⅱ B2①③-18		担 当 形 態	単独	
開講年次・期間		1 年次・後期	単位数	2	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態		講義	卒業・免許・資格等の必修		幼稚園教諭必修・保育士選択必修	
到 達 目 標		(1) 幼児理解の理論及び方法を理解する。 (2) 幼稚園教育の目的に適した幼児理解と援助を理解する。				
学位授与の方針との関連		専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身につけるための科目である。				
授 業 計 画						
授業の方法	パワーポイント、DVDを活用しながら講義形式で進める。					
回	授 業 内 容					
	1. 幼稚園教育と幼児理解 2. 「理解する」とは 3. 子どもの発達や学びの理解…映像教材から学ぶ 4. 遊びと幼児理解 5. 幼児理解を深める保育者の基本的姿勢 6. 保幼小をつなぐ理解 7. 幼児理解の目的と方法 8. 事例を通して幼児理解を学ぶ 9. クラス集団の理解と指導 10. 保育者の自己理解と保育の改善 11. 幼児のつまずきの理解とその対応 12. 幼児理解を磨く場としての園内研修 13. 保護者との連携と理解 14. 幼児理解を事例を通して 学ぶ 15. 映像教材を基に考える幼児理解					
アクティブラーニング の取り入れ状況		グループワーク、発表、実技を行う				
事 前 学 修(分／回)		授業計画に示された内容について、資料などを読み興味・関心を深めておくこと。(90 分)				
事 後 学 修(分／回)		授業内容を整理しておくこと。(90 分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		レスポンスカードについては、毎週講義の中でコメントします。課題・演習についても、講義 の中で解説します。				
成績評価の方法と基準		筆記試験 (70%)、授業への取り組み (30%)				
教 科 書		必要に応じて資料などを配付する。				
参 考 書 等		・文部科学省「幼稚園教育要領」 ・内閣府 文部科学省 厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」				
オフィスアワー		授業終了後、教室にて対応。				
科目に関連する実務経験／その他						

授業科目 (英語)	幼児教育相談 (Counseling and guidance in childhood education)			担当教員名	菊池 武剋
科目ナンバー	Ⅱ B2①③c19			担 当 形 態	単独
開講年次・期間	2 年次・後期	単位数	2	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態	講義	卒業・免許・資格等の必修		幼稚園教諭必修・保育士選択必修・准学校心理士必修	
到 達 目 標	① 学校及び幼児教育における教育相談の意義と理論を理解する。 ② 教育相談を進める際に必要な基礎的知識を理解する。 ③ 教育相談の具体的な進め方やポイントを理解する。				
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的知識を身につけさせるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	板書と DVD を活用しながら、講義形式で進める。				
回	授 業 内 容				
	1. 導入（科目の位置づけ、授業の概要） 2. 保育の場における相談ニーズとカウンセリング・マインド 3. 子どもの発達理解と相談・支援 4. 保護者への対応 - 子育て支援の視点 5. 発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわり 6. 子ども理解のための発達理論とカウンセリング的アプローチ 7. カウンセリング技法の活用（1）カウンセリングの基本 8. カウンセリング技法の活用（2）カウンセリングの技法 9. 園・地域における専門家との連携 10. 地域における子育ての課題と相談 11. 基礎的対人関係のトレーニング 12. 事例（1）子ども同士のいざこざ、仲間に入れない子ども 13. 事例（2）不登園 14. 事例（3）保護者からの相談 15. 試験・総括				
アクティブラーニング の取り入れ状況	グループワーク後、グループでのプレゼンテーション（5 回）。				
事 前 学 修(分／回)	授業前に次回の範囲を読んで、重要語句について調べておくこと（90 分）				
事 後 学 修(分／回)	授業後、期限内にレポートをまとめること（90 分）				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法	レポートにコメントを記入し返却する				
成績評価の方法と基準	試験 70%、ミニレポート 30%				
教 科 書	小田豊・秋田喜代美編著「子どもの理解と保育・教育相談（第 2 版）」 みらい				
参 考 書 等	講義時に指示する				
オフィスアワー	5 階 504 研究室 木曜日				
科目に関連する実務経験／その他	特になし				

授業科目 (英語)		教育実習Ⅰ (Teaching practiceⅠ)			担当教員名	中尾 彩子
科目ナンバー		ⅡB2①-20			担 当 形 態	複数
開講年次・期間		1 年次・前期	単位数	2	授業時間／回数	学内授業 30 時間・2 時間/週・15 回 学外実習 40 時間・8 時間/日・5 日間
授 業 形 態		演習・学外実習		卒業・免許・資格等の必修		幼稚園教諭必修
到 達 目 標		1 週間の幼稚園教育実習と行事参加実習を通し、幼稚園教諭としての基礎的实践力の育成を図るため、次の事項を目標とし、専門職としての資質の向上、専門的な知識・技術の一層の習得を目指す。 ① 幼稚園教育実習と行事参加実習の意義と目的を理解する。 ② 幼稚園教育実習と行事参加実習の観察、参加、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 ③ 幼稚園教育実習と行事参加実習における自らの課題を意識することにより、実習への抱負及び実習目標を明確にする。 ④ 実習園での幼児の人権の尊重、プライバシーの保護と守秘義務等				
学位授与の方針との関連		専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身につけるための科目である。				
授 業 計 画						
授業の方法	教科書を使って授業を行う。また、個別面談後、1 週間（5 日間）の実習、報告会を行う。					
回	授 業 内 容					
1. 幼稚園教育実習と行事参加実習の概要と目的（岩本） 2. 教育実習① 3 歳児の姿（鈴木・岩本） 3. 教育実習② 4 歳児の姿（鈴木・岩本） 4. 教育実習③ 5 歳児の姿（鈴木・岩本） 5. 実習日誌の作成方法と留意事項（鈴木・岩本） 6. 実習日誌の作成練習① 朝の会（鈴木・岩本） 7. 実習日誌の作成練習② 中心活動（鈴木・岩本） 8. 実習日誌の作成練習③ 昼食（鈴木・岩本） 9. 実習日誌の作成練習④ 帰りの会（鈴木・岩本） 10. 実習日誌の活用方法（鈴木・岩本） 11. 幼稚園教育実習と行事参加実習オリエンテーション（鈴木・特別講師：附属認定こども園長） 12. 幼稚園教育実習と行事参加実習オリエンテーション（鈴木・特別講師：附属認定こども園指導保育教諭） 13. 実習報告会準備（鈴木） 14. 実習報告会（鈴木） 15. 実習後個別面談（鈴木） ※実習後の面談、実習報告会の日程の詳細は後日提示する。 16. 幼稚園教育実習と行事参加実習：8 月～9 月に実施（鈴木・特別講師：附属認定こども園実習担当教員）						
アクティブラーニング の取り入れ状況			ペア、グループになり、よりよい実習日誌について議論する。（4 回） 実習（40 時間）			
事 前 学 修(分／回)			実習日誌の記入の練習等、授業と実習の準備をする。（30 分）			
事 後 学 修(分／回)			返却された実習日誌についての指摘事項、実習について対策をする。（30 分）			
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法			実習日誌にコメントを記入し、返却する。			
成績評価の方法と基準			実習園からの評価（50%）、実習報告会（40%）、レポート（10%）			
教 科 書			実習の手引き、大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規			
参 考 書 等			文部科学省「幼稚園教育要領解説」、内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」			
オフィスアワー			授業終了後、教室にて対応。			
科目に関連する実務経験／その他			学外実習科目である			

授業科目 (英語)	教育実習Ⅱ (Teaching practiceⅡ)			担当教員名	中尾 彩子
科目ナンバー	Ⅱ B2①-21			担 当 形 態	複数
開講年次・期間	2 年次・前期	単位数	4	授業時間／回数	学内授業 60 時間・6 時間/週 学外実習 120 時間・8 時間/日・15 日間
授 業 形 態	演習・学外実習	卒業・免許・資格等の必修		幼稚園教諭必修	
到 達 目 標	3 週間にわたる幼稚園教育実習を通し幼稚園教諭としての実践力の育成を図るため、次の事項を目標とし、専門職としての資質の向上、専門的な知識・技術の一層の習得を目指す。 ① 幼児の理解を深める ② 教師の援助についての理解を深める ③ 指導法を工夫する ④ 保育者像をもつ				
学位授与の方針との関連	専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	教科書を使って授業を行う。また、個別面談をした後、3 週間の実習、報告会を行う				
回	授 業 内 容				
1. 教育実習の目的（岩本） 2. 指導案の作成方法および留意事項（鈴木・岩本） 3. 指導案（部分）の添削指導（鈴木・岩本） 4. 指導案（全日）の添削指導（鈴木・岩本） 5. 模擬指導授業計画（部分）（鈴木・岩本） 6. 模擬指導授業実践（部分）（鈴木・岩本） 7. 模擬指導授業計画（全日）（鈴木・岩本） 8. 模擬指導授業実践（全日）（鈴木・岩本） 9. 実習に役立つ表現活動 おりがみ（鈴木・特別講師松里雪子） 10. 【事前学修】実習に役立つ表現活動 絵本（鈴木・特別講師松里雪子） 11. 【事前学修】①指導案（部分）の作成練習（鈴木・岩本）（360 分） 12. 【事前学修】②指導案（全日）の作成練習（鈴木・岩本）（360 分） 13. 【事後学修】①実習報告会準備（鈴木）（180 分） 14. 【事後学修】②実習報告会（鈴木）（450 分） 15. ※教育実習、実習報告会、実習後個別面談の日程の詳細は後日連絡する。					
アクティブラーニング の取り入れ状況	より良い指導案についてディスカッションした後、指導案を作成する。実習に役立つ表現活動についてディスカッションし、発表する（15 回）。実習（120 時間）				
事 前 学 修(分／回)	指導案の作成練習をする。				
事 後 学 修(分／回)	実習に必要な表現活動を復習して身につける。				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法	指導案にコメントを記入して返却する				
成績評価の方法と基準	実習園からの評価（50%）、実習報告会（40%）、レポート（10%）				
教 科 書	実習の手引き、大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規				
参 考 書 等	文部科学省「幼稚園教育要領解説」、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」				
オフィスアワー	授業終了後、教室にて対応。				
科目に関連する実務経験／その他	学外実習科目である				

授業科目 (英語)		教職・保育実践演習 (Practical seminar in nursery teacher's training)		担当教員名	中尾 彩子・館山 壮一	
科目ナンバー		Ⅱ B2①②-22		担 当 形 態	オムニバス	
開講年次・期間		2 年次・後期	単位数	2	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態		演習	卒業・免許・資格等の必修		幼稚園教諭必修・保育士必修	
到 達 目 標		1. 教職に就くにあたって、使命感や責任感を持つことが出来る 2. 社会性や対人能力を発揮し、保育活動を実践することが出来る 3. 幼児理解や学級経営について理解し、検討することが出来る 4. これまでの学びをより実践的・統合的なものにすることが出来る 5. 保育に関する科目横断的な学修能力を習得する事が出来る 6. 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う事が出来る 7. 問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める事が出来る 8. 保育者として必要な知識・技術を習得したことを確認する事が出来				
学位授与の方針との関連		専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身につける科目である。				
授 業 計 画						
授業の方法		スライドや配付プリントを用いて学修内容を説明した後、演習等を行う。				
回		授 業 内 容				
		1. オリエンテーション教職・保育実践演習について (中尾・館山) 2. 教育実習・保育実習での学びを振り返る (中尾) 3. 附属認定こども園との協働活動① 裂き織り作りの体験と指導案作成 (中尾) 4. 附属認定こども園との協働活動② 裂き織り作り指導のロールプレイ (中尾) 5. 附属認定こども園との協働活動③ 裂き織り指導の振り返りと指導案の再検討 (中尾) 6. 附属認定こども園との協働活動④ 裂き織り作りの幼児への指導 (中尾) 7. 附属認定こども園との協働活動⑤ 裂き織り作品を幼児に渡すときのコメント作成 (中尾) 8. 附属認定こども園との協働活動⑥ 修正指導案の発表 (中尾) 9. 附属認定こども園との協働活動⑦ 園周辺の探索と指導：短大の周りを歩いてみよう (館山) 10. 附属認定こども園との協働活動⑧ 身近な公共施設の利用と指導：短大図書館に行こう (館山) 11. 附属認定こども園との協働活動⑨ 紙を使った遊びと指導：紙飛行機でキャッチボール (館山) 12. 附属認定こども園との協働活動⑩ 安全管理と危機管理：普段の遊びの危険を知る (館山) 13. 付属認定こども園との協働活動⑪ 進級への配慮と幼小連携：小1 プロブレムへの理解 (館山) 14. アセスメントシミュレーション：アセスメント業務を体験する (館山) 15. 2 年間の講義の振り返りと教員・対人援助職としての心構え (館山)				
アクティブラーニング の取り入れ状況		グループワークをした後、指導案を作成、実践し、振り返りを発表する (7 回)。				
事 前 学 修(分／回)		授業内容に関連する文献等を読み、重要語句を調べる (文献等は各授業担当者から適宜紹介する) (90 分)				
事 後 学 修(分／回)		演習などを通じて得た知識・スキルが授業の内容とどのように関連しているのかを自分の言葉で説明できるようにする (90 分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		レポート等課題にコメントを記入して返却する。いくつかのレポートを授業中に取り上げ、コメントをする。				
成績評価の方法と基準		レポート (50%)、レスポンスカード・発表等への取り組み (50%)				
教 科 書		特に指定しない				
参 考 書 等		きむらゆういち、みやもとつよし著「きむらゆういち・みやもとつよしのガラクタ工作みんなで作って遊ぼう！」チャイルド社				
オフィスアワー		授業終了後、教室にて対応。				
科目に関連する実務経験／その他						

授業科目 (英語)	保育原理 (Principles of early childhood care and education)			担当教員名	中尾 彩子
科目ナンバー	Ⅱ B1②-23			担 当 形 態	単独
開講年次・期間	2 年次・前期	単位数	2	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態	講義	卒業・免許・資格等の必修		卒業必修・保育士必修	
到 達 目 標	1. 保育の意義について理解する。 2. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 3. 保育の内容と方法の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について考察する。				
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的な知識を身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	パワーポイントと教科書を活用しながら講義形式で進める。				
回	授 業 内 容				
	1. 保育の方向性と保育実践の基礎となる発達観 2. 保育に関する諸法令などからみる保育の原理 3. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、教育・保育要領の変遷 4. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領の比較 5. 養護と教育の一体化について 6. 保育における「養護」と「教育」の意味 7. 保育実践の基本構造について①乳児保育と保育内容 8. 保育実践の基本構造について②共同性・総合性・計画性 9. 多様な保育内容とその方法 10. 子育て支援について 11. 西洋と日本の保育の創成期と発展過程 12. 倉橋惣三に学ぶ ― 児童中心主義の保育を探る 13. “子どもの最善の利益”と“保育の質” 14. 保育を取り巻く現状 15. まとめ				
アクティブラーニング の取り入れ状況	グループワークをした後グループでのプレゼンテーションを行う (2 回)				
事 前 学 修(分／回)	教科書にしたがって授業は展開されるので、必ず教科書をよく読んで理解を深めておく。不明な語句については関連する本で調べておくこと。(90 分)				
事 後 学 修(分／回)	教科書の復習をおこない、誤答した箇所について資料等を調べること。(90 分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法	理解度確認小テストを回収後、解答の解説を行う。 レポートにはコメントを記入し返却する。				
成績評価の方法と基準	授業中のアクティブラーニングなどの参加状況 (30%)、基本的な知識、理解に関するまとめの小試験 (20%)、期末試験 (50%) による評価を行う。				
教 科 書	佐伯一弥他 「改訂 2 版 work で学ぶ保育原理」わかば社				
参 考 書 等	特に指定しない				
オフィスアワー	5 階 508 研究室 金曜日 4 限				
科目に関連する実務経験／その他	特になし				

授業科目 (英語)	子ども家庭福祉 (Child and family welfare)			担当教員名	館山 壮一
科目ナンバー	Ⅱ B1②-24			担 当 形 態	単独
開講年次・期間	2 年次・後期	単位数	2	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態	講義	卒業・免許・資格等の必修		卒業必修・保育士必修	
到 達 目 標	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。				
学位授与の方針との関連	社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための基礎となる科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	スライドや板書、配付物等を用いて講義した後、小テスト、グループでの討議などを取り入れて理解を深める。				
回	授 業 内 容				
1. 子ども家庭福祉の意義と理念：これから学ぶ内容と身につけてほしいこと 2. 子ども家庭福祉の歴史：子どもの扱いの歴史と子どもの存在 3. 子どもの権利を学ぶ：児童の権利に関する条約と人権の歴史 4. 子どもと家庭を取り巻く様々な法律と役割を理解する 5. 子ども家庭福祉の制度と実施体系：様々な行政の役割と子どもを取り巻く法制度 6. 様々な児童福祉施設とその現状 7. 様々な専門職と連携 8. 社会的養護と子ども家庭福祉 9. 子ども家庭福祉の課題 1：少子化・核家族・共働き上の課題 10. 子ども家庭福祉の課題 2：子どもとその障害を理解する 11. 子ども家庭福祉の課題 3：子どもへの虐待とDVの防止 12. 子ども家庭福祉の課題 4：地域の子育て支援 13. 子ども家庭福祉の課題 5：多様な保育ニーズと子どもの育ち 14. 子ども家庭福祉の課題 6：家庭との連携を考える 15. 子ども家庭福祉のこれからと課題					
アクティブラーニング の取り入れ状況		前半に基礎的な知識を講義形式で学修した後、それに基づいて各回に議題を決めてグループで事例検討・討議を行い、プレゼンテーションする（4回）。			
事 前 学 修(分／回)		シラバスを確認し、関連するニュースなどで気になる単語を調べる（90 分）			
事 後 学 修(分／回)		講義後、レポートなどを作成して提出する（90 分）			
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		前回のグループワークのまとめを行うとともに、理解度確認テストなどを実施して、解答の解説を行う。			
成績評価の方法と基準		レポート 50%、授業への取り組み 50%			
教 科 書		特に指定しない			
参 考 書 等		直島正樹・河野清志（編著）「図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉」 萌文書林			
オフィスアワー		授業終了時教室で			
科目に関連する実務経験／その他		特になし			

授業科目 (英語)		社会福祉 (Social welfare)		担当教員名		館山 壮一	
科目ナンバー		Ⅱ B2②-25		担 当 形 態		単独	
開講年次・期間		1 年次・前期	単位数	2	授業時間／回数		30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態		講義	卒業・免許・資格等の必修		保育士必修		
到 達 目 標		1．現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2．社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3．社会福祉における相談援助について理解する。 4．社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5．社会福祉の動向と課題について理解する。					
学位授与の方針との関連		社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための基礎となる科目である。					
授 業 計 画							
授業の方法		スライドや板書、配付物等を用いて講義した後、小テスト、グループでの討議などを取り入れて理解を深める。					
回		授 業 内 容					
		1. 社会福祉とは何か1：対人援助職の基本：コミュニケーションのあり方 2. 社会福祉とは何か2：社会福祉の理念と様々な概念－ 3. 社会福祉の歴史とその変遷 4. 子ども家庭支援と社会福祉：保育士として社会福祉を学ぶ意義を考える 5. 自己覚知・他者理解：自分自身を理解し、他者とのコミュニケーションに活用する 6. 社会福祉の制度と法体系：現代の社会経済の仕組みを理解する 7. 社会福祉行財政と実施機関 8. 様々な社会福祉施設とその経営 9. 社会保障及び関連制度の概要 10. 相談援助の理論と歴史 11. 相談援助の意義と機能 12. 相談援助の対象と過程 13. 相談援助の方法と技術 14. 利用者の保護に関わる仕組み：情報提供と第三者評価 15. 社会福祉の動向と課題：少子高齢化社会における子育て支援					
アクティブラーニング の取り入れ状況		前半に基礎的な知識を講義形式で学修した後、それに基づいて各回にて議題を決めてグループで事例検討・討議を行い、プレゼンテーションする（6回）。					
事前学修(分／回)		シラバスを確認し、関連するニュースなどで気になる単語を調べる（90分）					
事後学修(分／回)		講義後、レポートなどを作成して提出する（90分）					
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		前回のグループワークのまとめを行うとともに、理解度確認テストなどを実施して、解答の解説を行う。					
成績評価の方法と基準		筆記試験 50％、授業への取り組み 50％					
教科書		特に指定しない					
参考書等		直島直樹・原田旬哉（編著） 図解で学ぶ保育 社会福祉（第2版）萌文書林					
オフィスアワー		授業終了時教室で					
科目に関連する実務経験／その他		介護施設相談員					

授業科目 (英語)		子ども家庭支援論 (Childcare and family support)		担当教員名		館山 壮一	
科目ナンバー		Ⅱ B2②-26		担 当 形 態		単独	
開講年次・期間		2 年次・後期	単位数	2	授業時間／回数		30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態		講義	卒業・免許・資格等の必修		保育士必修		
到 達 目 標		1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。					
学位授与の方針との関連		専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身につけるための科目である。					
授 業 計 画							
授業の方法	スライドや板書、配付物等を用いて講義した後、小テスト、グループワークなどで様々な事例に取り組む。						
回	授 業 内 容						
1. 子ども家庭支援の意義と現代社会の変化 ー現代の家庭が抱える課題を理解するー 2. 子ども家庭支援の目的と機能 ー子どもにとっての家庭と家族ー 3. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 4. 子どもの育ちとしつけ 5. 保育士に求められる基本的態度 ーバイステックの7原則を活用した支援ー 6. 子どもの性格形成と家庭での兄弟への対応 ー親子のコミュニケーションをはかるー 7. 多様な支援の展開 1 ー育てにくい子どもへの対応ー 8. 多様な支援の展開 2 ー貧困家庭への支援ー 9. 多様な支援の展開 3 ー家庭内暴力と子どもへの虐待ー 10. 多様な支援の展開 4 ー地域資源の活用ー 11. 多様な支援の展開 5 ー妊娠と産後うつー 12. 多様な支援の展開 6 ー家庭の再統合とファミリーソーシャルワーカーー 13. 多様な支援の展開 7 ー保幼小連携と家庭支援ー 14. 保育士ができる支援の方法と関係機関との連携 15. 子ども家庭支援に関する現状と課題							
アクティブラーニング の取り入れ状況			講義後、様々な事例を用いてグループで立場を決めて討議する（6回）。				
事 前 学 修(分／回)			シラバスを確認し、関連するニュースなどで気になる単語を調べる（90 分）				
事 後 学 修(分／回)			講義後、レポートなどを作成して提出する（90 分）				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法			前回の講義内容を踏まえた理解度確認テストなどを実施し、解答の解説を行う。また、レポートを課す場合には添削して返却する。				
成績評価の方法と基準			試験 50%、授業への取り組み 50%				
教 科 書			特に指定しない				
参 考 書 等			児童育成協会（監修）「子ども家庭支援論」（新・基本保育シリーズ）中央法規出版				
オフィスアワー			授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験／その他			特になし				

授業科目 (英語)		社会的養護Ⅰ (Social careⅠ, (basic concepts))			担当教員名	館山 壮一
科目ナンバー		Ⅱ B2②-27			担 当 形 態	単独
開講年次・期間		1 年次・後期	単位数	2	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態		講義	卒業・免許・資格等の必修		保育士必修	
到 達 目 標		1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。				
学位授与の方針との関連		専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身に付ける科目である。				
授 業 計 画						
授業の方法	スライドや板書、配付物等を用いて講義した後、小テスト、グループでの討議などを取り入れて理解を深める。					
回	授 業 内 容					
1. 社会的養護の理念と概念 2. 社会的養護の歴史的変遷 3. 子どもの人権擁護と社会的養護 ―子どもの様々な背景を理解する― 4. 社会的養護の基本原則 5. 社会的養護における保育士等の倫理と責務 6. 社会的養護の制度と法体系 7. 社会的養護の仕組みと実施体系 8. 家庭的養護と施設養護の違いを理解する 9. 施設等の運営管理 ―施設での様々な取り組み― 10. 社会的養護と地域福祉 11. 家族の再統合1 ―親子のつながり― 12. 家庭の再統合2 ―少年犯罪と更生保護― 13. 施設養護とソーシャルワーク ―専門職との連携― 14. リービングケア・アフターケア 15. 社会的養護の現状と将来の展望						
アクティブラーニング の取り入れ状況		前半に基礎的な知識を講義形式で学修した後、それに基づいて各回にて議題を決めてグループで事例検討や討議を行い、プレゼンテーションする（4回）。				
事 前 学 修(分／回)		シラバスを確認し、関連するニュースなどで気になる単語を調べる（90 分）				
事 後 学 修(分／回)		講義後、レポートなどを作成して提出する（90 分）				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		前回のグループワークのまとめを行い、小テストなどを実施して、解答の解説を行う。				
成績評価の方法と基準		試験 50%、授業への取り組み 50%				
教 科 書		特に指定しない				
参 考 書 等		原田旬哉・杉山宗尚（編著） 図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅰ 萌文書林				
オフィスアワー		授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験／その他		介護施設相談員				

授業科目 (英語)		保育者論 (Lecture on nursery teacher)		担当教員名		中尾 彩子	
科目ナンバー		Ⅱ B1②-28		担 当 形 態		単独	
開講年次・期間		2 年次・後期	単位数	2	授業時間／回数		30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態		講義	卒業・免許・資格等の必修		卒業必修・保育士必修		
到 達 目 標		1. 保育者の役割や倫理、制度的な位置づけについて理解する。 2. 保育所や認定こども園の 1 日と保育者の役割や職務内容について理解する。 3. 具体的な場面を通して、保育者の専門性や専門職的成長について理解する。 4. 保護者や地域社会、関係機関等との連携・協働について理解する。 5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。					
学位授与の方針との関連		保育者の役割や職務内容を理解し、乳幼児期を中心とした子どもに関する専門的知識や社会人として豊かな教養と他者への共感力を身に付けるための科目である。					
授 業 計 画							
授業の方法	教科書や配布資料、DVDやパワーポイントを活用しながら、講義形式で進め、グループワーク等を行う。						
回		授 業 内 容					
1. 保育者の役割及び職務内容 2. 保育者の専門的倫理（専門職倫理・職業倫理）と法律 3. 保育者の資格と責務 4. 養護と教育が一体となった保育の展開 5. 子どもの日常生活や遊びの場面における保育者の援助 6. 子どもの育ちを支える保育者の資質・能力 7. 保育者の専門的な知識・技術・判断 8. 計画に基づく保育の実践と省察・評価（PDCAサイクル） 9. 保育の全体的な計画にかかわる保育者の専門性 10. 保育の質の向上と自己評価 11. 保育における職員間の連携・協働 12. 家庭との連携と保護者に対する支援 13. 地域における自治体や専門機関との連携・協働 14. 多様なニーズへ対応する保育者への期待 15. 保育者のキャリア形成と生涯発達							
アクティブラーニング の取り入れ状況			グループワークやディスカッション、プレゼンテーション等を行う。（4回）				
事 前 学 修(分／回)			授業前に次回の範囲を読んで、重要語句等について調べておくこと。（90 分）				
事 後 学 修(分／回)			授業内容を振り返りノート等に整理し、期限内にレポートを提出すること。（90 分） 保育者としての役割や責務を考え、必要な習慣や態度を身に付けるよう心がける。				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法			質問への解説やレポートにコメントを記入し返却します。				
成績評価の方法と基準			プレゼンテーション 60%、レポート 30%、授業への貢献度 10%				
教 科 書			特に指定しない				
参 考 書 等			厚生労働省「保育所保育指針解説書」 文部科学省「幼稚園教育要領解説」 内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館				
オフィスアワー			5 階 508 研究室 金曜日 4 限				
科目に関連する実務経験／その他			特になし				

授業科目 (英語)	保育の心理学 (Psychology of early childhood care and education)			担当教員名	菊池 武剋
科目ナンバー	Ⅱ B1②-29			担 当 形 態	単独
開講年次・期間	1 年次・前期	単位数	2	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態	講義	卒業・免許・資格等の必修		卒業必修・保育士必修	
到 達 目 標	① 発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達をとらえる視点を理解する。 ② 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、養護と教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 ③ 子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得する。				
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的知識を身につけさせる科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	板書とパワーポイント、DVD を活用しながら、講義形式で進める。				
回	授 業 内 容				
	1. 人としての発達を考える（1）関係の中で育つ 2. 人としての発達を考える（2）社会・文化の中で育つ 3. 子どもの発達を理解することの意義 4. 家庭生活の中で育つ 5. 近隣社会への広がりの中で育つ 6. 学校生活の中で育つ 7. 子どもの発達過程（1）社会情動的発達 8. 子どもの発達過程（2）身体的機能と運動機能の発達 9. 子どもの発達過程（3）認知の発達 10. 子どもの発達過程（4）言語の発達 11. 子どもの発達過程（5）自我の発達 12. 子どもの学びと保育（1）乳幼児期の学びに関わる理論 13. 子どもの学びと保育（2）乳幼児期の学びの過程と特性 14. 子どもの学びと保育（3）乳幼児期の学びを支える保育 15. 試験・総括				
アクティブラーニング の取り入れ状況	グループワーク後、グループでのプレゼンテーション。（3 回）				
事 前 学 修(分／回)	授業前に次回の範囲を読んで、重要語句について調べておくこと（90 分）				
事 後 学 修(分／回)	授業後、期限内にレポートをまとめること（90 分）				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法	レポートにコメントを記入し返却する				
成績評価の方法と基準	試験 70%、ミニレポート 30%				
教 科 書	沼山博・三浦主博編著「子どもとかかわる人のための心理学」萌文書林				
参 考 書 等	柏木恵子著「子どもが育つ条件」岩波新書				
オフィスアワー	5 階 504 研究室 火曜日				
科目に関連する実務経験／その他	特になし				

授業科目 (英語)		子ども家庭支援の心理学 (Psychology of child and family care)		担当教員名		菊池 武剋		
科目ナンバー		Ⅱ B2②-30			担 当 形 態		単独	
開講年次・期間		2 年次・前期	単位数	2	授業時間／回数		30 時間・2 時間/週・15 回	
授 業 形 態		講義	卒業・免許・資格等の必修		保育士必修			
到 達 目 標		1) 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、各時期の移行、発達課題について理解する。 2) 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係について発達の理 解し、子どもとその家庭を包括的にとらえる視点を習得する。						
学位授与の方針との関連		乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的知識を身につけさせるための科目である。						
授 業 計 画								
授業の方法	板書とパワーポイント、DVD を活用しながら、講義形式で進める。							
回	授 業 内 容							
1. 生涯発達 2. 乳幼児期の発達 3. 児童期の発達 4. 青年期の発達 5. 成人期の発達 6. 中年期の発達 7. 老年期の発達 8. 家庭・家族の理解 9. 家族・家庭の意義と機能 10. 親子関係・家族関係の理解 11. 子育ての経験と親としての育ち 12. 子育て家庭の現状と課題 13. ライフコースと仕事・子育て 14. 子どもの精神保健とその課題 15. 試験・総括								
アクティブラーニング の取り入れ状況		グループワーク後、グループでのプレゼンテーション。(3 回) (						
事 前 学 修(分／回)		授業前に次回の範囲を読んで、重要語句について調べておくこと (90 分)						
事 後 学 修(分／回)		授業後、期限内にレポートをまとめること (90 分)						
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		レポートにコメントを記入し返却する						
成績評価の方法と基準		試験 70%、ミニレポート 30%						
教 科 書		沼山博・三浦主博編著「子どもとかかわる人のための心理学」 萌文書林						
参 考 書 等		授業で適宜紹介する。						
オフィスアワー		5 階 504 研究室 火曜日						
科目に関連する実務経験／その他		特になし						

授業科目 (英語)		子どもの理解と援助 (Understanding and support of children)		担当教員名		中尾 彩子	
科目ナンバー		Ⅱ B2②-31		担 当 形 態		単独	
開講年次・期間		2 年次・前期	単位数	1	授業時間／回数		30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態		演習	卒業・免許・資格等の必修		保育士必修		
到 達 目 標		(1) 子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解している。 (2) 子どもの経験や学習過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解している。 (3) 子どもを理解するための具体的な方法を理解している。 (4) 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解している。					
学位授与の方針との関連		乳幼児期を中心とした子どもに関する豊富な専門的知識を身につけさせる科目である。					
授 業 計 画							
授業の方法		スライドや資料映像を活用しながら理論を説明した後、ワークブック等を用いて演習を行う。					
回		授 業 内 容					
		1. 保育における子ども理解の意義①トートロジーから抜け出そう 2. 保育における子ども理解の意義②人の行動の「日常的」な理解の仕方 3. 保育における子ども理解の意義③人の行動の「科学的」な理解の仕方 4. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握①経験と学習 5. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握②馴化と脱馴化、鋭敏化 6. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握③無条件刺激と無条件反応 7. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握④レスポナデント条件づけ 8. 子どもを理解する視点①環境としての保育者と発達 9. 子どもを理解する視点②保育の環境の理解と構成 10. 子どもを理解する方法①「そうするのはなぜ?」「その行動が続いているのはなぜ?」 11. 子どもを理解する方法②「それをしないのはなぜ?」「その行動が続かないのはなぜ?」 12. 子どもを理解する方法③レスポナデント条件づけ 13. 子どもの理解に基づく発達援助①ルール支配行動と随伴性形成行動 14. 子どもの理解に基づく発達援助②学び手は常に正しいー好子を使った行動変容 15. 子どもの理解に基づく発達援助③特別な配慮を要する子どもの理解と援助 (DVD)					
アクティブラーニング の取り入れ状況			ワークブックやエクササイズを使ったグループワーク (15 回)				
事 前 学 修(分／回)			次回の箇所のワークブックを読みプログラム学習を行う (20 分)				
事 後 学 修(分／回)			授業で行った箇所のワークブックを読み、プログラム学習を行う (25 分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法			毎授業後にプログラム学習の達成度を確認し、コメントをする				
成績評価の方法と基準			筆記試験 (70%)、授業への貢献度 (30%)				
教 科 書			吉野智富実・吉野俊彦 著 (2016)「プログラム学習で学ぶ行動分析ワークブック」学苑社				
参 考 書 等			授業で適宜紹介する。				
オフィスアワー			5 階 508 研究室 金曜日 4 限				
科目に関連する実務経験／その他			特になし				

授業科目 (英語)	子どもの保健 (Child's health)			担当教員名	小岩 由香
科目ナンバー	Ⅱ B2②-32			担 当 形 態	単独
開講年次・期間	1 年次・前期	単位数	2	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態	講義	卒業・免許・資格等の必修		保育士必修	
到 達 目 標	① 子どもの発育・発達、乳幼児期にかかりやすい疾患を理解する。 ② 安全と保育環境について学び、子どもが地域の中で健やかに育まれることを手助けするための知識を習得する。				
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する専門的知識を身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	板書と教科書を活用しながら講義形式ですすめる。				
回	授 業 内 容				
1. 子どもの健康と保健の意義 2. 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 3. 子どもの身体発育と生理機能の発達（身体発育・生理機能の発達） 4. 運動機能の発達・精神機能の発達・成長と発達 5. 地域における保健活動と児童虐待と防止 6. 子どもの健康状態の把握 7. 発育・発達の把握と健康診断 8. 子どもの疾病の予防及び適切な対応（1）子どもの病気の特徴・感染症・免疫・アレルギー性疾患 9. 子どもの疾病の予防及び適切な対応（2）消化器疾患・循環器疾患 10. 子どもの疾病の予防及び適切な対応（3）血液系の疾患・内分泌・代謝性疾患 11. 子どもの疾病の予防及び適切な対応（4）神経系の疾患・腎・泌尿器疾患・先天性の疾患 12. 子どもの疾病の予防と対応（学校保健安全法で定める疾患） 13. 学校保健安全法及び保育所における感染症対策ガイドラインによる、感染症に対する規定 14. 予防接種 15. 子どもの疾病への国の対応（子どもの疾病に対する福祉）					
アクティブラーニング の取り入れ状況	これまでの経験から保健の授業と照らし合わせ、考え方の共有を行う（3回）				
事 前 学 修(分／回)	自分自身の母子手帳で幼児期の健康状態、予防接種実施状況を確認すること（90 分）				
事 後 学 修(分／回)	授業に関連した子どもを取り巻く状況について、新聞やニュースなどで現状を知ること（90 分）				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法	試験後、解答の解説を行います。 レスポンスカードの内容を、次回の授業開始時に説明を行います。				
成績評価の方法と基準	試験 90％ レスポンスカード 10％				
教 科 書	小林美由紀編著「授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト 改訂第 2 版」診断と医療社、 監修：鴨下 重彦、柳澤 正義「子どもの病気の地図帳」 講談社				
参 考 書 等	授業で適宜紹介する。				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験／その他	保健師および看護師として勤務				

授業科目 (英語)		子どもの食と栄養 (Food and nutrition for children)		担当教員名	横山 恵	
科目ナンバー		Ⅱ B2②-33		担 当 形 態	単独	
開講年次・期間		2 年次・後期	単位数	2	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態		演習	卒業・免許・資格等の必修		保育士必修	
到 達 目 標		1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を修得している。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解できる。 3. 養護および教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解できる。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解できる。 5. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解できる。				
学位授与の方針との関連		乳幼児期を中心とした子どもに関する専門的知識を身につけるための科目である。				
授 業 計 画						
授業の方法	スライドを活用し、講義およびプリント等による演習、一部実習を行なう。					
回	授 業 内 容					
1. 子どもの健康と食生活の意義①食生活と心身の健康のかかわり 2. 子どもの健康と食生活の意義②食生活の現状と課題 3. 栄養に関する基礎知識：栄養素の消化・吸収、栄養素の種類とはたらき 4. 栄養に関する制度：日本人の食事摂取基準と献立作成・調理の基本 5. 妊娠期と授乳期の食生活：妊娠前、妊娠期・授乳期の問題 6. 乳児期の食生活①授乳の意義と実践【実習】：調乳 7. 乳児期の食生活②離乳の意義と実践【実習】：離乳食 8. 幼児期の発育・発達と食生活：心身の発達、栄養の問題 9. 学童期、思春期の発育・発達と食生活：心身の発達、栄養の問題、学校給食・栄養教育 10. 生涯発達と食生活：成人期、高齢期の健康上の課題と対策 11. 食育の基本と内容①保育における食育の意義、食育のための環境づくり：保護者支援、地域・職員連携 12. 食育の基本と内容②食育の内容と計画および評価【グループワーク】：P D C A サイクル 13. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養：食事環境の配慮、家庭への情報提供 14. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養（体調不良、疾病、障害）：対応、留意点 15. アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養：基礎知識・対応、総まとめ						
アクティブラーニング の取り入れ状況		実習（2 回）、グループワーク（1 回）				
事 前 学 修(分／回)		日頃より、食に関する話題に関心を持つように努める。 教科書に目をとおし、わからない語句は確認しておく。(90 分)				
事 後 学 修(分／回)		授業時のポイントをまとめ、教科書や参考書で確認し、理解を深める。 理解が不十分な点は教員に質問するなどして解決する。(90 分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		試験後に試験の解説を行う。演習用紙にコメントし、返却する。				
成績評価の方法と基準		試験（60％）授業中の課題、取り組み態度（40％）				
教 科 書		太田百合子，堤ちはる編「子どもの食と栄養第3 版」羊土社				
参 考 書 等		厚生労働省「保育所における食事の提供ガイドライン」 厚生労働省「楽しく食べる子どもに～食からはじまる健やかガイド～」 厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン（2019 年改訂版）」				
オフィスアワー		授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験／その他		特になし				

授業科目 (英語)		心理学概論 (Introduction to psychology)		担当教員名		中尾 彩子		
科目ナンバー		I B2③-34			担 当 形 態		単独	
開講年次・期間		2 年次・後期	単位数	2	授業時間／回数		30 時間・2 時間/週・15 回	
授 業 形 態		講義	卒業・免許・資格等の必修		保育士選択必修			
到 達 目 標		1. 自らの心を知り、他者の心とどのように触れ合っていくかについての洞察力を身につけることができる。 2. 心理療法について学び、社会人として不可欠な姿勢・態度を身につけることができる。 また、心理療法を体験することで、望ましい対人スキルの素地を築くことができるようになる。						
学位授与の方針との関連		社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための科目である。						
授 業 計 画								
授業の方法	資料映像や画像を活用しながら理論を説明し、グループディスカッション等を行う。							
回	授 業 内 容							
	1. 心理学とは 一心の科学の誕生と発展、多様なアプローチと方法－ 2. 行動の生理・生物的基础 3. 感覚と知覚（1） ー外界を感じる、知る－ 4. 感覚と知覚（2） ー環境は見聞きした通りではない－（実習1） 5. 感覚と知覚（3） ー錯視実験－（実習2） 6. 感覚と知覚（4） ー触覚－ 7. 感覚と知覚（5） ー2 触点閾－（実習3） 8. 記憶 ー時間と空間の拡張－ 9. 動機づけと情動 （動因と誘因）（感情・情動の由来と機能） 10. 学習（1） 学習理論とその応用 11. 学習（2） ー両側性転移－（実習4） 12. 発達 一心の働きの発達と衰退－ 自己と他者（こころの理論） 13. 社会心理学 ー社会的存在としての自己－（実習5） 14. 臨床心理学 ー環境適応者としての自己－（実習6） 15. 心を測るとは ー総括－							
アクティブラーニング の取り入れ状況		授業にて5 回程度の実習を行い、質疑応答を交えて学修を深める。						
事 前 学 修(分／回)		日常生活の中で、次回のテーマに関する行動や出来事を探す。(90 分)						
事 後 学 修(分／回)		配布プリントと講義内容をまとめ次回の授業で質疑できるようにしておく。(90 分)						
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		1. 適宜小問を課し、レスポンスカードに解答を求め、次回の授業冒頭に解説する。 2. 各回でレポート提出を課し、次回の授業冒頭に解説する。						
成績評価の方法と基準		レポート成績 (50%)、レスポンスカード小問解答評価 (50%)						
教 科 書		特に指定しない						
参 考 書 等		今田寛他共著「心理学の基礎」 培風館						
オフィスアワー		5 階 508 研究室 金曜日 4 限						
科目に関連する実務経験／その他		特になし						

授業科目 (英語)	保育内容総論 (Introduction to contents of childcare and education)			担当教員名	岩渕 愛
科目ナンバー	Ⅱ B2②-35			担 当 形 態	単独
開講年次・期間	1 年次・前期	単位数	1	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態	演習	卒業・免許・資格等の必修		保育士必修	
到 達 目 標	1. 保育内容各論の内容について、子どもの生活・遊びの中で総合的にとらえる視点をもつことができるようになる。 2. 乳幼児の興味や関心、発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。 3. 指導計画の考え方を理解し、発達を見通した指導計画を作成する。 4. 保育者の役割や専門性について理解する。				
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する専門的な知識や技能を修得し、思考力や表現力、総合的な実践力を身に付けるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	教科書や配布資料、DVDを活用して学修内容を説明した後、演習を行う。				
回	授 業 内 容				
1. 保育内容とは何か：就学前施設における「保育」とは、保育内容の必要性と意義 2. 保育内容の歴史的変遷と保育の全体構造：保育の基本的な考え方、養護と教育が一体的に展開する保育 3. 乳幼児期の発達の特性と発達過程：五領域ごとにみた園生活における保育内容 4. 生活や遊びを通した総合的な保育：遊びの本質・遊びで育つもの、生活と遊びの関係 5. 個と集団の育ちと保育内容：保育の1日と内容、生活の連続性 6. 子ども・子育て支援新制度と保育サービスの新展開、多様な保育の展開 7. 多様な保育の展開：乳児保育、長時間の保育、病児・病後児保育 8. 特別な支援を必要とする子どもの保育、実態と課題 9. 多文化共生の保育とその意義、多文化共生を目指す保育 10. 保育所・幼稚園・認定こども園における小学校との連携、就学前の保護者に対する支援 11. 保育内容を深める遊び 12. 保育の内容を深める遊びと指導計画作成の方法 13. 保育内容と子どもの理解：「記録」をすることは、保育に生かす保育実践記録 14. 「保育内容総論」の学習のまとめ：保育者の専門性と役割・保育の質 15. 試験の解説、今後の保育内容の課題と展望					
アクティブラーニング の取り入れ状況	グループワークをした後、グループ及び全体でのプレゼンテーションを行う（6回）				
事 前 学 修(分／回)	次回の授業範囲を読んで、不明な語句等については調べておくこと。(20 分)				
事 後 学 修(分／回)	授業内容を振り返りノートに整理するなど学んだ内容の定着を図る。 期限内に課題レポートを提出すること（25 分）				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法	質問への解説やレポートにコメントを記入し返却します。 理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。				
成績評価の方法と基準	試験 50%、レポート 30%、授業への参加（意欲・発表等）状況 20%				
教 科 書	渡邊英則、大豆生田啓友 編著「保育内容総論」ミネルヴァ書房				
参 考 書 等	厚生労働省「保育所保育指針解説書」 文部科学省「幼稚園教育要領解説」 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験／その他	保育士および幼稚園教諭として勤務				

授業科目 (英語)		乳児保育Ⅰ (Infant childcareⅠ)			担当教員名	北澤 和美
科目ナンバー		Ⅱ B1②-36			担 当 形 態	単独
開講年次・期間		1 年次・後期	単位数	2	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態		講義	卒業・免許・資格等の必修		卒業必修・保育士必修	
到 達 目 標		1. 乳児保育の意義・目的を学び、歴史的変遷と乳児保育をめぐる現状を踏まえ、乳児保育の役割と機能を理解する。 2. 保育所など乳児が生活する場の現状と課題について理解する。 3. 3 歳未満児の発達過程と生活や遊びについて理解する。 4. 職員間・保護者・地域の関係機関など連携や協働のなかで行われる乳児保育の在り方を理解する。				
学位授与の方針との関連		乳幼児期は人格形成の基礎をつくる時期であることを理解し、子どもに関する専門的な知識や技能を身に付けるための科目である。				
授 業 計 画						
授業の方法	教科書や配付資料、DVDを活用しながら講義形式で進める。					
回	授 業 内 容					
1. 乳児保育とは、子どもと家庭を取り巻く環境 2. 乳児保育の課題、保育所保育指針からみる乳児保育 3. 乳児保育の理念と歴史的変遷、現代における乳児保育の社会的役割 4. 乳児保育の制度と課題（認可保育所・認定こども園・小規模保育・家庭的保育・乳児院） 5. 発達の理解に基づく援助や関わりの基本 6. 0～6 か月未満児の発達過程と保育内容 7. 6 か月以上1 歳未満児の発達過程と保育内容 8. 1 歳以上2 歳未満児の発達過程と保育内容 9. 2 歳以上3 歳未満児の発達過程と保育内容 10. 基本的生活習慣の獲得と援助 ①食事・排泄 11. 基本的生活習慣の獲得と援助 ②睡眠・清潔の習慣・衣服の着脱 12. 乳児保育における全体的な計画：指導計画の作成、指導計画に基づく保育実践、保育の省察・評価 13. 乳児保育における子育て支援：保護者の育ちを支えるための保育者の役割、子育て支援の実際 14. 乳児保育における連携：職員間の連携・家庭との連携・地域との連携 15. 子どもの権利及び最善の利益						
アクティブラーニング の取り入れ状況		グループワークをした後、グループ及び全体でのプレゼンテーションを行う。（4 回）				
事 前 学 修(分／回)		次回の授業範囲を読んで、不明な語句等については調べておくこと。（90 分）				
事 後 学 修(分／回)		授業内容を振り返りノートに整理するなど学んだ内容の定着を図る。 期限内に課題レポートを提出すること。（90 分）				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		質問への解説やレポートにコメントを記入し返却します。 理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。				
成績評価の方法と基準		試験 60%、課題レポート 30%、授業への参加（意欲・発表等）状況 10%				
教 科 書		阿部和子編著 寺田清美 山王堂恵偉子 小山朝子「改訂 乳児保育の基本（第2 版）」萌文書林				
参 考 書 等		厚生労働省「保育所保育指針解説書」 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館				
オフィスアワー		授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験／その他						

授業科目 (英語)		乳児保育Ⅱ (Infant childcareⅡ)		担当教員名		北澤 和美	
科目ナンバー		Ⅱ B2②-37		担 当 形 態		単独	
開講年次・期間		2 年次・前期	単位数	1	授業時間／回数		30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態		演習	卒業・免許・資格等の必修		保育士必修		
到 達 目 標		1. 3 歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境構成について理解する。 3. 上記 1 ～ 2 を踏まえ、乳児保育における計画の作成について理解する。					
学位授与の方針との関連		3 歳未満児の心と体の発達とそれを取り巻く環境を知り、共に成長するための援助や環境の構成など、専門的な知識や技術を習得するための科目である。					
授 業 計 画							
授業の方法		授業計画に沿って学修したことをイメージし、実践に結びつくことができるようにビデオや事例検討、また実際に乳児の遊び（おもちゃ、手遊び、絵本など）も取り入れながら、幅広く“乳児の世界”を学んでいく。					
回		授 業 内 容					
		1. 乳児保育の基本①：子どもと保育士等との関係の重要性 2. 乳児保育の基本②：子どもの主体性の尊重と自己の育ち 3. 保育所の 1 日：生活の流れと保育の環境 4. 乳児保育の内容と方法①：0 歳児保育と生活・遊び 5. 乳児保育の内容と方法②：0 歳児における保育の計画の実際 6. 乳児保育の内容と方法③：1 歳児の発育と生活・遊び 7. 乳児保育の内容と方法④：1 歳児における保育の計画の実際 8. 乳児保育の内容と方法⑤：2 歳児の保育と生活・遊び 9. 乳児保育の内容と方法⑥：2 歳児における保育の計画の実際 10. 乳児の心身の健康と安全 11. 乳児の保育課程と指導計画①：長期的な指導計画と短期的な指導計画 12. 乳児の保育課程と指導計画②：個別的な指導計画と集団の指導計画 13. 乳児期の環境と人間関係 14. 乳児保育における保育者の専門性と資質向上に向けて 15. 乳児保育のこれからと保育者に望まれるもの					
アクティブラーニング の取り入れ状況		グループワークをした後、グループ及び全体でのプレゼンテーションを行う。(6 回)					
事 前 学 修(分／回)		次回の授業範囲を読んで、不明な語句等について調べておくこと。(20 分)					
事 後 学 修(分／回)		授業内容を振り返りノートに整理するなど学んだ内容の定着を図る。 期限内に課題レポートを提出すること。(25 分)					
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		質問への解説やレポートにコメントを記入し返却します。 理解度確認テストを回収後、解答の解説を行います。					
成績評価の方法と基準		筆記試験 50%、課題・レポート 30%、授業への参加（意欲・発表等）状況 20%					
教 科 書		阿部和子編著 寺田清美 山王堂恵偉子 小山朝子「改訂 乳児保育の基本（第 2 版）」萌文書林					
参 考 書 等		厚生労働省「保育所保育指針解説書」 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館					
オフィスアワー		授業終了時教室で					
科目に関連する実務経験／その他							

授業科目 (英語)	子どもの健康と安全 (Child's health and safety)			担当教員名	小岩 由香
科目ナンバー	Ⅱ B2②-38			担 当 形 態	単独
開講年次・期間	1 年次・後期	単位数	1	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態	演習	卒業・免許・資格等の必修		保育士必修	
到 達 目 標	① 子どもの健康・安全にかかる、保健活動計画の立案・評価方法を知る。 ② 子どもの身体計測等の器具の取り扱いや日常の養育技術を習得する。 ③ 子どもの疾病と予防対策及び早期発見のための知識を身につけ、初期対応を理解する。 ④ 救急時の対応や事故防止・安全な保育環境作りを理解する。				
学位授与の方針との関連	乳幼児期を中心とした子どもに関する専門的知識を身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	板書と教科書を活用しながら講義形式で進めます。 計測器具の適切な使用方法について演習を行います。				
回	授 業 内 容				
1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 2. 保育における健康安全管理の実際 3. 保育における健康安全管理の実際 (1) 衛生管理 4. 保育における健康安全管理の実際 (2) 事故防止及び安全対策理・危機管理・災害への準備 5. 子どもの体調不良等に対する適切な対応 6. 子どもの体調不良等に対する適切な対応 (1) 体調不良や傷害が発生した場合の対応 7. 子どもの体調不良等に対する適切な対応 (2) 応急処置・救急処置及び救急蘇生法 8. 感染症対策 9. 保育における保健的対応 10. 個別な配慮を必要とする子どもへの対応 (1) 子どもの心の健康とその課題 11. 個別な配慮を必要とする子どもへの対応 (2) 慢性疾患、アレルギー性疾患等 12. 障害のある子どもへの対応 13. 健康安全管理の実施体制 14. 母子保健・地域保健と保育 15. 家庭・専門機関・地域との連携					
アクティブラーニング の取り入れ状況		グループワーク後グループでのプレゼンテーションを行う (3 回)			
事 前 学 修(分／回)		乳幼児期に罹患した自身の疾患について家族に確認しておくこと (20 分)			
事 後 学 修(分／回)		授業後、自身の健康状態と学んだ内容を照らし合わせてください (25 分)			
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		試験後、解答の解説を行います。			
成績評価の方法と基準		試験 90% レスポンスカード 10%			
教 科 書		小林美由紀編著「授業で現場で役に立つ！子どもの健康と安全演習ノート改訂第 2 版」診断と医療社、監修：鴨下 重彦、柳澤 正義「子どもの病気の地図帳」講談社			
参 考 書 等		授業時間に適宜紹介する。			
オフィスアワー		授業終了時教室で			
科目に関連する実務経験／その他		保健師および看護師として勤務			

授業科目 (英語)		社会的養護Ⅱ (Social careⅡ, (practical contents))			担当教員名	館山 壮一
科目ナンバー		Ⅱ B2②-39			担 当 形 態	単独
開講年次・期間		2 年次・前期	単位数	1	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態		演習	卒業・免許・資格等の必修		保育士必修	
到 達 目 標		1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。				
学位授与の方針との関連		専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身につけるための科目である。				
授 業 計 画						
授業の方法	スライドや板書、配付物等を用いて講義した後、小テスト、グループでの討議などを取り入れて理解を深める。					
回	授 業 内 容					
	1. 社会的養護の基礎と子どもの理解 2. 施設養護における支援 1 ―日常生活支援、治療的支援― 3. 施設養護における支援 2 ―自立支援、自己実現― 4. 施設養護の生活特性及び実際 5. 家庭養護の生活特性及び実際 6. アセスメントの実施 7. 個別支援計画の作成 8. 記録の意義と自己評価 9. 保育の専門性に関わる知識・技術とその実践 1 ―支援者としての資質と倫理― 10. 保育の専門性に関わる知識・技術とその実践 2 ―保育者自身を守る― 11. 社会的養護に関わる相談援助の知識・技術 12. 相談援助の知識・技術を活かした実践事例 1 ―施設入所時の対応：アドミッション케어 13. 相談援助の知識・技術を活かした実践事例 2 ―施設入所中の対応：インケア 14. 相談援助の知識・技術を活かした実践事例 3 ―施設退所時の対応：リービング・アフターケア 15. 社会的養護における家庭支援との関連性 ―保育士の業務を振り返る―					
アクティブラーニング の取り入れ状況		前半に基礎的な知識を講義形式で学修した後、それに基づいて回ごとに議題を決めてグループで事例検討・討議を行い、プレゼンテーションする (10 回)。				
事 前 学 修(分／回)		シラバスを確認し、関連するニュースなどで気になる単語を調べる (20 分)				
事 後 学 修(分／回)		講義後、レポートなどを作成して提出する (25 分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		前回のグループワークのまとめを行うとともに、理解度確認テストなどを実施して、解答の解説を行う。				
成績評価の方法と基準		期末レポート 50%、授業への取り組み 50%				
教 科 書		特に指定しない				
参 考 書 等		杉山宗尚 (他) 編著「図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅱ」萌文書林				
オフィスアワー		授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験／その他		介護施設相談員				

授業科目 (英語)		子育て支援 (Childcare and parenting support)		担当教員名		中尾 彩子		
科目ナンバー		Ⅱ B2②-40			担 当 形 態		単独	
開講年次・期間		2 年次・後期	単位数	1	授業時間／回数		30 時間・2 時間/週・15 回	
授 業 形 態		演習		卒業・免許・資格等の必修		保育士必修		
到 達 目 標		(1) 子育て家庭に対して保育士の行う相談等の支援の展開について具体的に理解している (2) 子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容とその実際を理解している						
学位授与の方針との関連		専門的知識・技術を実際の場面に応用することを身につけるための科目である。						
授 業 計 画								
授業の方法	DVD やグループワークを通して演習を行う							
回	授 業 内 容							
	1. 子どもの保育とともに行う保護者の支援 2. 子ども及び保護者の状況・状態の把握 3. 支援の実践・記録・評価・カンファレンス 4. 人はなぜ相談するのか：アウトリーチの考え方 5. 様々な子育ての場面と相談事例 6. 職員間の連携・協働：相談支援の基礎となるものを身につける 7. 保護者対応を論理的に捉える：保護者は何を求めているのか 8. 子育て家庭に対する支援の実際①保育所における支援とその実際 9. 子育て家庭に対する支援の実際②特別な配慮を要する子ども及び家庭に対する支援とその実際 (DVD) 10. 子育て家庭に対する支援の実際③エコグリッドとエコマップ、ジェノグラム 11. 子育て家庭に対する支援の実際④傾聴と来談者中心療法 (DVD) 12. 子育て家庭に対する支援の実際⑤信頼関係を築く傾聴の姿勢 13. 子育て家庭に対する支援の実際⑥共感的理解 14. 子育て家庭に対する支援の実際⑦保護者との面談のロールプレイング 15. 子育て家庭に対する支援の実際⑦保護者をエンパワーメントする							
アクティブラーニング の取り入れ状況		グループワーク及びロールプレイング (6 回)。						
事 前 学 修(分／回)		地域の子育て支援の資料を集め整理する (20 分)						
事 後 学 修(分／回)		授業でのノートをまとめ気になった箇所を調べる (25 分)						
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		課題に対しての意見をまとめ、次の回にコメントする						
成績評価の方法と基準		レポート 50%, 授業への貢献度 50%						
教 科 書		特に指定しない						
参 考 書 等		児童育成協会 (監修)「子育て支援 (新・基本保育シリーズ)」 中央法規出版						
オフィスアワー		5 階 508 研究室						
科目に関連する実務経験／その他		保育業務運営会社勤務						

授業科目 (英語)		保育実習Ⅰ (保育所) (Childcare trainingⅠ)		担当教員名		中尾 彩子・館山 壮一	
科目ナンバー		ⅡB2②-41		担 当 形 態		複数	
開講年次・期間		1年次・後期	単位数	2	授業時間／回数		学外実習 80時間・8時間/日・10日間
授 業 形 態		学外実習	卒業・免許・資格等の必修		保育士必修		
到 達 目 標		(1) 保育所において乳幼児の活動や保育士の援助等を観察し、更に保育活動に参加することにより、乳幼児について理解することが出来る。 (2) 保育所が担っている機能と役割について理解することが出来る。 (3) 保育士の職務や倫理について理解し、実習生として遵守することが出来る。 (4) 保育士の職務について正しい認識を身につけることが出来る。 (5) 建学の精神を基本とした人間性豊かな保育士として活動するために必要な知識と技能を習得することが出来る。					
学位授与の方針との関連		専門的知識・技能を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善する、また、社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための科目である。					
授 業 計 画							
授業の方法		1年後期の2月に保育所等で10日間の実習を行う。実習先の保育士と同様の勤務形態の中で、実習園の実態に合わせ見学実習や部分実習を担当保育士の指導の下に実践的な体験を通して学ぶ。					
回		授 業 内 容					
		1. 実習中は実習園の職員の指導の下に次のような学修を行う 2. ① 実習する保育所の機能と役割、更に沿革や保育方針について理解する 3. ② 保育活動に参加し1日の生活の流れ(登園、遊び、昼食、降園の様子など)を理解し、その記録 4. について学修する 5. ③ 子どもを観察したり関わったりしながら乳幼児の発達を理解する 6. ④ 保育計画・指導計画について学修する 7. ⑤ 保育活動や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得する 8. ⑥ 職員間の役割分担とチームワークについて理解する 9. ⑦ 施設設備と遊具や敷地状況について理解する 10. ⑧ 保護者とのコミュニケーション等を通じて家庭を理解することを学ぶ 11. ⑨ 保育士としての役割と業務内容、職業倫理について学修する 12. ⑩ 子どもの安全と疾病予防に対する配慮について学修する 13. ⑪ 反省とまとめ 14. ※実習期間中の活動を反省し日常生活や大学での学修につなげる。					
アクティブラーニング の取り入れ状況			実習(おおよそ10日)				
事 前 学 修(分/回)			保育実習指導Ⅰの授業内容を基にして確実に準備を行う。実習園で事前の指導を受けた際に指示された注意事項をしっかりと守り、事前準備を十分に行った上で実習生として自覚をもって積極的に実習に取り組むこと。(合計して200分)				
事 後 学 修(分/回)			実習後は、実習中に見つけた課題や指導担当者から指摘された事柄について確実に学修と練習を行うこと。(合計して250分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法			実習日誌、指導案、レポート、報告会の内容について個別面談を行う。				
成績評価の方法と基準			実習園からの評価60%、実習報告会における取り組み状況など40%				
教 科 書			厚生労働省編「保育所保育指針」 「実習の手引き」				
参 考 書 等			厚生労働省編「保育所保育指針解説書」、 実習園で指定された参考書等				
オフィスアワー			中尾：5階508 研究室 金曜日4限、館山：5階 509 研究室 月曜日5限				
科目に関連する実務経験／その他			学外実習科目である。				

授業科目 (英語)		保育実習Ⅰ（施設） (Childcare trainingⅠ)		担当教員名		中尾 彩子・館山 壮一	
科目ナンバー		Ⅱ B2②-41		担 当 形 態		複数	
開講年次・期間		1 年次・後期	単位数	2	授業時間／回数		学外実習 80 時間・8 時間/日・10 日間
授 業 形 態		学外実習	卒業・免許・資格等の必修		保育士必修		
到 達 目 標		1. 施設において入所者および利用者の活動や保育士の援助等を観察し、更に活動に参加することにより、福祉施設が担っている機能・保育士の職務や倫理について学修する。 2. 福祉施設の機能についての理解を深めると共に、保育士の職務について正しい認識を身につける。その上で、卒業後には建学の精神を基本とした人間性豊かな保育士として活動するために必要な知識と技能を習得する。					
学位授与の方針との関連		専門的知識・技能を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善する。また、社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための科目である。					
授 業 計 画							
授業の方法		2 年前期に児童福祉施設等で 10 日間の実習を行う。実習先の職員・施設保育士と同様の勤務形態の中で、施設や利用者・入居者の生活実態に触れ、見学実習や部分実習を担当職員の指導の下に実践的な体験を通して学ぶ。					
回		授 業 内 容					
		1. 実習中は施設職員の指導の下に次のような学修を行う 2. ① 実習する施設の機能と役割、更に沿革や運営方針について理解する 3. ② 施設の一日の生活と一日の流れを理解し、その記録について学修する 4. ③ 子どもを観察したり関わったりしながらその記録について学修する 5. ④ 子どもの個々の状態に応じた援助や関わりを理解する 6. ⑤ 計画に基づく活動に参加し、活動への援助について学修する 7. ⑥ 人的・物的環境や子どもの心身に応じた援助や関わりについて学修する 8. ⑦ 支援計画を理解し、活用方法を学修する 9. ⑧ 保育士としての役割と業務内容、職業倫理について学修する 10. ⑨ 子どもの安全と疾病予防に対する配慮について学修する 11. ※①～⑨まで、一日の活動を反省し、翌日の準備を行う 12. ⑩ 反省とまとめ 13. ※実習期間中の活動を反省し日常生活や大学での学修につなげる					
アクティブラーニング の取り入れ状況			実習（おおよそ 10 日）				
事 前 学 修(分／回)			保育実習指導Ⅰの授業内容を基にして確実に準備を行う。施設で事前の指導を受けた際に指示された注意事項をしっかりと守り、事前準備を十分に行った上で実習生として自覚をもって積極的に実習に取り組むこと。(合計して 200 分)				
事 後 学 修(分／回)			実習後は、実習中に見つけた課題や指導担当者から指摘された事柄について確実に学修と練習を行うこと。(合計して 250 分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法			実習日誌、指導案、レポート、報告会の内容について個別面談を行う。				
成績評価の方法と基準			実習先施設・実習園からの評価 60%、実習報告会における取り組み状況など 40%				
教 科 書			厚生労働省編「保育所保育指針」				
参 考 書 等			厚生労働省編「保育所保育指針解説書」、 実習園で指定された参考書等				
オフィスアワー			中尾：5 階 508 研究室 金曜日 4 限、館山：5 階 509 研究室 月曜日 6 限				
科目に関連する実務経験／その他			学外実習科目である。				

授業科目 (英語)	保育実習指導Ⅰ (Guidance to childcare trainingⅠ)			担当教員名	中尾 彩子・館山 壮一
科目ナンバー	Ⅱ B2②-42			担 当 形 態	複数
開講年次・期間	1 年次・後期	単位数	2	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態	演習	卒業・免許・資格等の必修		保育士必修	
到 達 目 標	(1) 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 (2) 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 (3) 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。				
学位授与の方針との関連	専門的知識・技能を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善するための知識を身につけるための科目である				
授 業 計 画					
授業の方法	スライドや映像資料を用いながら演習を行う。				
回	授 業 内 容				
1. オリエンテーション 保育実習について (中尾・館山) 2. 保育所の役割と機能 - 保育所の生活と一日の流れ - (中尾) 3. 事務手続きについて (中尾) 4. 保育実習記録の書き方 <目標設定> (中尾) 5. 保育実習記録の書き方 <課題設定> (中尾) 6. 保育実習記録の書き方 <デイリー> (中尾) 7. 実習園とのオリエンテーションについて (中尾) 8. 保育実習記録の書き方 <エピソード> (中尾) 9. 障害者施設の概要 (館山) 10. 児童福祉施設の概要 (館山) 11. 施設で実習を行う上での注意点 (館山) 12. 施設での日常生活支援 (館山) 13. 実習報告会準備 (中尾・館山) 14. 実習報告会① Aグループ (中尾・館山) 15. 実習報告会② Bグループ (中尾・館山)					
アクティブラーニング の取り入れ状況	グループワーク及び発表 (12 回)。				
事 前 学 修(分／回)	実習で必要な書類や資料を集め整理する。(90 分)				
事 後 学 修(分／回)	日誌やエピソード記録等の加筆・修正を行う。(90 分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法	提出物に対してコメントを記入し返却する。				
成績評価の方法と基準	授業への貢献度 40%, レポート 20%, 発表内容 40%&				
教 科 書	実習の手引き				
参 考 書 等	厚生労働省「保育所保育指針」				
オフィスアワー	中尾：5 階 508 研究室 金曜日 4 限 館山：5 階 509 研究室 月曜日 5 限				
科目に関連する実務経験／その他	特になし				

授業科目 (英語)		保育実習Ⅱ (Childcare trainingⅡ)		担当教員名	中尾 彩子	
科目ナンバー		Ⅱ B2③-43		担 当 形 態	単独	
開講年次・期間		2 年次・前期	単位数	2	授業時間／回数	学外実習 30 時間・8 時間/日・10 日
授 業 形 態		学外実習	卒業・免許・資格等の必修		保育士選択必修	
到 達 目 標		(1) 保育実習Ⅰで学んだことを踏まえ、保育所の活動について具体的な実践を通して理解を深めることができる (2) 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価について実際に取り組み、理解を深めることができる (3) 保育士の業務内容について具体的な実践に結びつけて理解することができる (4) 保育士の職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解することができる (5) 保育士としての自己の課題を明確化することができる				
学位授与の方針との関連		専門的知識・技能を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善する、また、社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための科目である				
授 業 計 画						
授業の方法	2 年次前期に保育所等でおおよそ 10 日間の実習を行う。実習先の保育士と同様の勤務形態の中で、実習園の実態に合わせ、担当保育士の指導の下、部分実習や全日実習を行い、実践的な体験を通して学ぶ。					
回	授 業 内 容					
1. 実習中は実習園の職員の指導の下に次のような学修を行う。 2. ① 実習する保育所で行われている養護と教育が一体となっている保育を学ぶ。 3. ② 保育活動に参加し一日の生活の流れ（登園、遊び、昼食、降園の様子など）を観察・記録し、 理解する。 4. ③ 保育士の子どもとのかかわり方や動きを観察し理解する。 5. ④ 子どもの活動と保育指導案について学修する。 6. ⑤ 作成した保育指導計画案に基づき、部分実習を行う。 7. ⑥ 保育計画、保育実践、省察、評価といった保育過程の一連の流れを理解する。 8. ⑦ 長時間保育や、交代勤務などを経験し、保育士間の連携やチームワークを学ぶ。 9. ⑧ 保育士としての役割と業務内容、職業倫理について学修する。 10. ⑨ 子どもとの保護者への対応などの家庭との連携について学ぶ。 11. ⑩ 作成した保育指導計画案に基づき、全日実習を行う。 12. 反省とまとめを行い、自己の課題を明確化する。						
アクティブラーニング の取り入れ状況		実習（10 日）				
事 前 学 修(分／回)		保育実習指導Ⅱの授業内容を基にして確実に準備を行う。実習園で事前の指導を受けた際に指示された注意事項をしっかりと守り、事前準備を十分に行った上で実習生として自覚をもって積極的に実習に取り組むこと。（合計して 200 分）				
事 後 学 修(分／回)		実習後は、実習中に見つけた課題や指導担当者から指摘された事柄について確実に学修と練習を行うこと。（合計して 250 分）				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		実習日誌、指導案、レポート、報告会の内容について個別面談を行う。				
成績評価の方法と基準		実習園からの評価 60%、実習報告会への取り組み 40%				
教 科 書		厚生労働省編「保育所保育指針」				
参 考 書 等		厚生労働省編「保育所保育指針解説書」、 実習園で指定された参考書等				
オフィスアワー		中尾：5 階 508 研究室 金曜日 4 限				
科目に関連する実務経験／その他		学外実習科目である。				

授業科目 (英語)		保育実習指導Ⅱ (Guidance to Childcare trainingⅡ)			担当教員名	中尾 彩子
科目ナンバー		Ⅱ B2③-44			担 当 形 態	単独
開講年次・期間		2 年次・前期	単位数	1	授業時間／回数	30 時間・4 時間/週
授 業 形 態		演習	卒業・免許・資格等の必修		保育士選択必修	
到 達 目 標		(1) 保育実習の意義と目的を理解し、子どもの最善の利益とは何かを学ぶことを通して、保育士の専門性と職業倫理について理解する。 (2) 本授業を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確に理解する。 (3) 実習やその他関連授業を通して、保育の改善についての実践や事例を学び、保育実践力を培うことができる。				
学位授与の方針との関連		専門的知識・技能を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善するための知識を身につけるための科目である。				
授 業 計 画						
授業の方法	スライドや映像資料を用いながら演習を行う					
回	授 業 内 容					
	1. オリエンテーション/実習Ⅰ（保育所）の振り返り 2. 保育実習Ⅰで指摘された注意点及び改善について 3. 事務手続きについて 4. 実習日誌の書き方：デイリー 5. 実習日誌の書き方：エピソード 6. 実習における保育者や保護者とのかかわり方 7. 子どもの状態を理解し、子どもの行動を予測する 8. 音楽、ペープサート、パネルシアター等を活かした保育実践 9. 部分実習指導計画案の書き方 10. 部分実習指導計画案の作成 11. 全日実習指導計画案の書き方 12. 全日実習指導計画案の作成 13. 実習報告会準備 14. 実習報告会①Aグループ 15. 実習報告会②Bグループ					
アクティブラーニング の取り入れ状況		模擬保育やグループワーク及び発表を行う（14回）。				
事 前 学 修(分／回)		実習に必要な制作物及び指導案の作成（20 分）				
事 後 学 修(分／回)		日誌及び指導の修正（25 分）				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		提出物に対してコメントを記入し返却する。				
成績評価の方法と基準		授業への貢献度 40%, レポート 20%, 発表内容 40%				
教 科 書		実習の手引き				
参 考 書 等		厚生労働省「保育所保育指針」				
オフィスアワー		5 階 508 研究室 金曜日 4 限				
科目に関連する実務経験／その他		保育業務運営会社での勤務				

授業科目 (英語)		保育実習Ⅲ (Childcare training Ⅲ)		担当教員名		館山 壮一	
科目ナンバー		Ⅱ B2③-45		担 当 形 態		単独	
開講年次・期間		2 年次・前期	単位数	2	授業時間／回数		学外実習 30 時間・8 時間/日・10 日
授 業 形 態		学外実習	卒業・免許・資格等の必修		保育士選択必修		
到 達 目 標		1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を身につける。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 保育士としての自己の課題を明確化する。					
学位授与の方針との関連		専門的知識・技能を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善する、また、社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための科目である。					
授 業 計 画							
授業の方法	実習先職員・保育士と同様の勤務形態の中で、実習先の実態に合わせ担当指導者の下、生活支援や活動支援を行い、実践的な体験を通して施設と保育士の役割について学ぶ。						
回	授 業 内 容						
1. 「実習中の学修内容」 2. 実習中は実習園の職員の指導の下に次のような学修を行う 3. 1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能 4. 2. 施設における支援の実際 5. (1) 受容し、共感する態度 6. (2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子どもの理解 7. (3) 個別支援計画の作成と実践 8. (4) 子どもの家族への支援と対応 9. (5) 多様な専門職との連携 10. (6) 地域社会との連携 11. 3. 保育士の多様な業務と職業倫理 12. 4. 保育士としての自己課題の明確化							
アクティブラーニング の取り入れ状況		実習（10 日）					
事 前 学 修(分／回)		保育実習指導Ⅲの授業内容を基にして確実に準備を行う。(合計して 200 分)					
事 後 学 修(分／回)		実習後、担当指導者から指摘された事柄や日誌に記入した内容、記入いただいたコメントをよく読み、保育士として自身の行動を正すこと。(合計して 250 分)					
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		実習日誌、指導案、レポート、報告会の内容について個別面談を行う。					
成績評価の方法と基準		実習施設からの評価 60%、実習報告会への取り組み 40%					
教 科 書		特に指定しない。					
参 考 書 等		田中利則（監修），加藤洋子・一瀬早百合（編集），「事例を通して学びを深める 施設実習ガイド」ミネルヴァ書房					
オフィスアワー		5 階 509 研究室 月曜日 5 限					
科目に関連する実務経験／その他		学外実習科目である。					

授業科目 (英語)		保育実習指導Ⅲ (Guidance to childcare trainingⅢ)			担当教員名	館山 壮一
科目ナンバー		Ⅱ B2③-46			担 当 形 態	単独
開講年次・期間		2 年次・前期	単位数	1	授業時間／回数	30 時間・4 時間/週
授 業 形 態		演習	卒業・免許・資格等の必修		保育士選択必修	
到 達 目 標		1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。				
学位授与の方針との関連		専門的知識・技能を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善する。また、社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための科目である。				
授 業 計 画						
授業の方法	前半でスライド等を使用し講義を行った後、具体的な事例をもとに演習や質疑応答などを取り入れて理解を深める。					
回	授 業 内 容					
1. 実習の意義とスケジュール 2. オリエンテーションの注意事項：アポイントのとり方や服装の確認 3. 施設実習の注意事項：オリエンテーションの内容を理解して実習に挑む 4. 実習日誌の書き方 1 5. 実習日誌の書き方 2 6. 施設保育士の専門性と職業倫理（職員や利用者との関わり方） 7. 実習施設での過ごし方 8. よくある実習中のトラブルとトラブル発生時の対応 9. 児童養護施設について 特別講師：渡部 俊幸 氏 藤の園 10. 児童養護施設の事例から 特別講師：遠藤 玄実 氏 藤の園 11. 施設における支援 特別講師：菅原 文彦 12. 利用者の利益と支援 特別講師：菅原 文彦 13. 知的・身体障がいとその対応 特別講師：小笠原 隆 氏 14. 実習生としての関わり方 特別講師：小笠原 隆 氏 15. 実習の総括と自己評価 ー反省と振り返りー						
アクティブラーニング の取り入れ状況			日誌の記入方法について事例をもとにグループで記入・修正し合う。オリエンテーションの内容をグループで確認するなどのグループワーク（8回）。			
事前学修(分／回)			実習の手引きや昨年度の実習報告会資料を熟読する。(20 分)			
事後学修(分／回)			日誌の記入で直された点や気をつける点を復習する。(25 分)			
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法			提出物に対してコメントを記入し返却する。			
成績評価の方法と基準			授業への取り組み方 40%, レポート 20%, 発表内容 40%			
教科書			実習の手引き			
参考書等			田中利則（監修），加藤洋子・一瀬早百合（編集）「事例を通して学びを深める 施設実習ガイド」ミネルヴァ書房			
オフィスアワー			5 階 509 研究室 月曜日 5 限			
科目に関連する実務経験／その他			特になし			

授業科目 (英語)		総合表現 (Composite arts)			担当教員名	清水 智子
科目ナンバー		Ⅱ B2--47			担 当 形 態	単独
開講年次・期間		2 年次・後期	単位数	2	授業時間／回数	60 時間・4 時間/週・15 回
授 業 形 態		演習	卒業・免許・資格等の必修			
到 達 目 標		① リズムダンスを中心とした舞台を制作することができる。 ② 作成したプログラムを発表会で披露することができる。 ③ リズムダンス群舞で協調する喜びを味わうと共に総合的表現の活動を製作から発表まで経験し、実践を学ぶ。				
学位授与の方針との関連		専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身につける科目である。				
授 業 計 画						
授業の方法	学修内容を説明した後、演習を行う。1 回の授業は 4 時間（2 コマ）とする。					
回	授 業 内 容					
1. フェスティバル① テーマの設定、プログラム構成を考える 2. フェスティバル② プログラムを具体的に考える 3. フェスティバル③ ステージAの企画を考える 4. フェスティバル④ ステージAの構成、編曲を考える 5. フェスティバル⑤ ステージAの企画、構成、リズム編曲を考える 6. フェスティバル⑥ ステージBの構成を考える 7. フェスティバル⑦ ステージBの編成を考える 8. フェスティバル⑧ ステージCの構成を考える 9. フェスティバル⑨ ステージCの編成を考える 10. フェスティバル⑩ リズム体操の企画、構成を考える 11. フェスティバル⑪ リズム体操の編曲、振り付けを考える 12. フェスティバル⑫ 附属こども園園児との企画を考える 13. フェスティバル⑬ 附属こども園園児との構成を考える 14. 使用会場におけるリハーサル（一関文化センター大ホール） 15. 公開発表会「こどものためのファンタジックフェスティバル」（一関文化センター大ホール）						
アクティブラーニング の取り入れ状況		ディスカッションしながら発表製作する（15 回）。				
事 前 学 修(分／回)		グループごとにアンサンブルや振り付け、絵画小物制作などを行う授業であることから、授業外での打ち合わせや練習を繰り返すこと。（45 分）				
事 後 学 修(分／回)		発表会の舞台演出に必要な制作物などの作成を積極的に行うこと。（45 分）				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		発表に対してコメントをする。				
成績評価の方法と基準		授業での創作活動状況（50％）、表現活動への取り組み状況（50％）				
教 科 書		特に指定しない。				
参 考 書 等		植田光子・高後堂愛子・木許隆 編著（2017）「楽しい音楽表現」圭文社 など				
オフィスアワー		授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験／その他						

授業科目 (英語)	公務員・教養数学演習 (Basic mathematics exercises for civil servants)			担当教員名	館山 壮一
科目ナンバー	Ⅱ B 2 --49			担 当 形 態	単独
開講年次・期間	1 年次・後期	単位数	1	授業時間／回数	15 時間・1 時間/週・15 回
授 業 形 態	演習	卒業・免許・資格等の必修			
到 達 目 標	1. 数学に基づく多様な解法を習得している。 2. 様々な問題を実際に解くことができる。 3. 公務員をはじめとして社会人に必要な心構えを持っている。				
学位授与の方針との関連	社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	初めに解き方を例示し、その後実際の過去問を授業時間内に 3－4 問解く。				
回	授 業 内 容				
	1. 公務員試験概要：どのような試験問題が出題されるのか 2. 数的推理の解法パターン（濃度計算） 3. 数的推理の解法パターン（速度） 4. 数的推理の解法パターン（仕事算） 5. 数的推理の解法パターン（流水算） 6. 数的推理の解法パターン（約数・倍数） 7. 数的推理の解法パターン（順列・組合せ） 8. 数的推理の解法パターン（年齢算） 9. 判断推理（嘘つき問題） 10. 判断推理（円卓問題） 11. 空間把握（立体図形） 12. 空間把握（展開図） 13. 資料解釈 14. 文章理解 15. 公務員学内模試（成績判定の試験ではありません）				
アクティブラーニング の取り入れ状況	前半に基礎的な知識を講義形式で学習した後、実際の演習問題の解法に挑戦する。				
事 前 学 修(分／回)	シラバスを確認し、過去問などの解き方を調べる（45 分）				
事 後 学 修(分／回)	講義後、問題の解法を復習し、各自参考書等の問題を解く（45 分）				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法	前回のまとめを行うとともに、理解度確認テストなどを実施して、解答の解説を行う。				
成績評価の方法と基準	理解度確認テスト 50%、授業への取り組み 50%				
教 科 書	資格試験研究会編「公務員試験 新スーパー過去問ゼミ 数的推理」実務教育出版				
参 考 書 等	適宜紹介する				
オフィスアワー	授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験／その他	特になし				

授業科目 (英語)		公務員・キャリア教養演習 (Career education seminar for civil servants)		担当教員名	小山 祐二・館山 壮一	
科目ナンバー		Ⅱ B 2 --50		担 当 形 態	オムニバス	
開講年次・期間		2 年次・前期	単位数	1	授業時間／回数	15 時間・1 時間/週・15 回
授 業 形 態		演習	卒業・免許・資格等の必修			
到 達 目 標		1. 経済学に関する基礎的な考え方を理解している。 2. 様々な問題を実際に解くことができる。 3. 公務員だけではなく社会人に必要な技能や心構えを持っている。				
学位授与の方針との関連		社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための科目である。				
授 業 計 画						
授業の方法		初めに経済理論を板書し、その後実際の経済学の問題に挑戦する。				
回		授 業 内 容				
1. 経済学の基礎・考え方		(館山)				
2. 公務員総合対策演習 (マクロ経済学)		(館山)				
3. 公務員総合対策演習 (ミクロ経済学)		(館山)				
4. 公務員総合対策演習 (金融政策・財政政策)		(館山)				
5. 公務員総合対策演習 (国民所得)		(館山)				
6. 公務員総合対策演習 (外国為替・国際金融)		(館山)				
7. 数的推理の解法パターン (速度問題)		(館山)				
8. 数的推理の解法パターン (旅人算)		(館山)				
9. 判断推理・資料解釈		(館山)				
10. 社会人としてのマナー・職業倫理		(館山)				
11. 公務員試験対策：グループ討議 1		(館山)				
12. 公務員試験対策：模擬面接		(館山)				
13. ビジネス文書・公文書の書き方 1		(小山)				
14. ビジネス文書・公文書の書き方 2		(小山)				
15. 履歴書・自己 P R・志望動機の書き方と添削		(小山)				
アクティブラーニング の取り入れ状況		前半に基礎的な知識を講義形式で学習した後、それに基づいて演習問題に取り組み、公務員試験対策の模擬面接やグループ討議を行う。(15 回)				
事 前 学 修(分／回)		過去問などの解き方を調べる (45 分)				
事 後 学 修(分／回)		問題の解法を復習し、各自参考書等の問題を解く (45 分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		前回のグループワークのまとめを行うとともに、理解度確認テストなどを実施して、解答の解説を行う。				
成績評価の方法と基準		理解度確認テスト 50%、授業への取り組み 50%				
教 科 書		適宜プリント等を配布して対応する。				
参 考 書 等		資格試験研究会編「公務員試験 新スーパー過去問ゼミ マクロ経済学」実務教育出版				
オフィスアワー		授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験／その他		特になし				

授業科目 (英語)		経営とマーケティング (Management and marketing)		担当教員名	館山 壮一	
科目ナンバー		Ⅱ B 2 --51		担 当 形 態	単独	
開講年次・期間		2 年次・後期	単位数	2	授業時間／回数	30 時間・2 時間/週・15 回
授 業 形 態		講義	卒業・免許・資格等の必修			
到 達 目 標		1. 社会を構成する一員としてその仕組みを理解している。 2. 給料が発生する仕組みを理解し、社会保険料を自身で計算できる。 3. 資本主義の仕組みを理解し、金銭管理の重要性を意識する。 4. 経営学の様々な基礎概念を理解し、興味を持って経営学について調べる事ができる。				
学位授与の方針との関連		社会人としての豊かな教養と他者への共感力を身につけるための科目である。				
授 業 計 画						
授業の方法	スライドや板書、配付物等を用いて講義した後、グループワークやボードゲーム等を用いた活動を行い、それぞれに理解を深める。					
回	授 業 内 容					
1. 社会とビジネスの関係性 2. 決算書の読み方 財務諸表と会社の仕組み 3. 給料と社会保険 4. もしもお店を開いたら1 ー店舗のコンセプト作りー 5. もしもお店を開いたら2 ー簿記の仕組みー 6. ケーキ作りから学ぶ原価計算1 商品設計 7. ケーキ作りから学ぶ原価計算2 製品を作ってみよう 8. ケーキ作りから学ぶ原価計算3 試食 9. ケーキ作りから学ぶ原価計算4 原価計算と儲け 10. ゲームで学ぶ社会の仕組み1 資本主義と政治体制 11. ゲームで学ぶ社会の仕組み2 政府の仕組みと社会 12. ゲームで学ぶ社会の仕組み3 お金の使い方 13. ゲームで学ぶ社会の仕組み4 投資・株式の仕組み 14. ゲームで学ぶ社会の仕組み5 投資と投機の違い 15. ゲームで学ぶ社会の仕組み6 保育に役立てる社会の仕組み						
アクティブラーニング の取り入れ状況		各講義の前半に基礎的な知識を講義形式で学習した後、それに基づいて回ごとにグループで事例検討や討議を行い、実際に活動する。(15 回)				
事 前 学 修(分／回)		シラバスを確認し、関連するニュースなどで気になる単語を調べる (90 分)				
事 後 学 修(分／回)		講義後、レポートなどを作成して提出する (90 分)				
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		前回のグループワークのまとめを行うとともに、理解度確認テストなどを実施して、解答の解説を行う。				
成績評価の方法と基準		授業への取り組み (5 0 %)、講義後のレポート (5 0 %)				
教 科 書		適宜プリント等を配布して対応する。				
参 考 書 等		大石哲之『コンサル一年目が学ぶこと』				
オフィスアワー		授業終了時教室で				
科目に関連する実務経験／その他		一般企業での販売・経理業務担当 3 年				

授業科目 (英語)	卒業研究 (Graduation research)			担当教員名	千葉 正・中尾 彩子・館山 壮一
科目ナンバー	Ⅱ B1--48			担 当 形 態	クラス分け
開講年次・期間	2 年次・通年	単位数	2	授業時間／回数	90 時間・前期 30 時間・2 時間/週・15 回 後期 60 時間・4 時間/週・15 回
授 業 形 態	実習	卒業・免許・資格等の必修		卒業必修	
到 達 目 標	1. これまでの専門知識と実習実技の技能を生かし、研究テーマを設定できる。 2. 研究を遂行する実習あるいは調査などの計画を立てることができる。 3. 実習あるいは調査を実施し、得られた結果を整理し考察することができる。 4. 研究成果をまとめ口頭発表し、質疑に的確に応答できる。 5. 研究成果を論理的に論文としてまとめることができる。				
学位授与の方針との関連	専門的知識・技術を実際の場面に応用し、自らの活動を省察し改善していく確かな実践力を身に付ける科目である。				
授 業 計 画					
授業の方法	研究方法を説明し、グループワークを通して調査等を行う。				
回	授 業 内 容				
1. 研究倫理について (研究倫理審査委員会委員長) 以後、卒業研究は各担当教員の指導の下に次のように研究を進める。 2. ①1 年次後期に実施された卒業研究発表会に参加し卒業研究について概要を把握する。 3. ②各自の希望を基に決定された卒業研究担当教員の指導の下、研究テーマを検討する。 4. ③研究テーマを設定するための文献等の検索方法を学ぶ。 5. ④文献検索を行う。 6. ⑤文献をまとめグループディスカッションを行う。 7. ⑥研究テーマを設定する。 8. ⑦研究テーマに関する社会的背景を調べまとめる。 9. ⑧研究テーマに関する既往の研究を調べまとめる。 10. ⑨研究のすすめかたについてディスカッションを行う。 11. ⑩研究のすすめかたを見出す。 12. ⑪研究の展開を具体化する 13. ⑫研究の実施計画を作成する。 14. ⑬予備実習、予備調査を実施する。 15. ⑭計画に則り、実習、調査を実施する。 16. ⑮研究計画を要旨にまとめる。 17. ⑯中間発表 18. ⑰これまでの研究成果をまとめ、大学祭においてポスターによる発表を行う。 19. ⑱適宜、結果を整理する。 20. ⑲適宜、まとめた結果を分析し考察する。 21. ⑳さらに、実習、調査を実施する。 22. ㉑結果を整理してまとめ、分析し考察する。 23. ㉒考察に関わる文献検索を行いまとめる。 24. ㉓考察に関わる文献についてディスカッションを行う。 25. ㉔序論と目的の作成を行う。 26. ㉕方法の作成を行う。 27. ㉖結果の図表を作成する。㉗考察の作成を行う。 28. ㉘論文をまとめる。 29. ㉙研究論文の抄録を作成し、研究論文とともに提出する (提出日及び時間厳守) 30. ㉚研究をパワーポイントによるスライドにまとめ、卒業研究発表会で口頭発表する。					
アクティブラーニング の取り入れ状況		担当教員の指導のもと調査等を行う (全回)。			
事 前 学 修(分／回)		卒業研究は、これまでの学修の集大成である。今までの学修の中で関連のある分野の内容の復習を行うことが必要である。また、これから展開する研究内容の分野の参考文献を予習することが重要である。			
事 後 学 修(分／回)		研究結果を考察しておく。			
課題(試験やレポート等)に 対するフィードバック方法		研究の進捗状況を把握し、助言をおこなう。			
成績評価の方法と基準		卒業研究論文 (60%)、卒業研究発表会 (20%)、調査中の態度意欲 (20%)			
教 科 書		特に指定しない。			
参 考 書 等		適宜紹介する。			
オフィスアワー		各担当教員のオフィスアワーに準じる。			
科目に関連する実務経験／その他		特になし			